県民交流広場事業

評　価　と検　証

＝ 本格実施２年間の事業展開を踏まえて ＝

県 民 生 活 審 議 会

総 合 政 策 部 会

目　次

第１章	**県民交流広場事業の評価・検証の趣旨**	**1**
	1　いまなぜ県民交流広場か	1
	2　県民交流広場事業の概要	1
	3　県民交流広場事業の現状	2
	4　評価・検証の趣旨	3
	5　評価・検証の進め方	3
第２章	**評価・検証**	**4**
	評価・検証の視点	4
	1　効果的な事業展開の視点から	
	1-1　地域推進委員会について	5
	1-2　事業プランについて	9
	1-3　場づくりについて	12
	1-4　活動プログラムについて	15
	1-5　コミュニティ内外の協働について	19
	2　地域の自主的・自立的な取組の視点から	
	2-1　地域による点検と改善について	24
	2-2　「参画と協働」の取組について	26
	3　地域コミュニティ再生の視点から（「第７期県民生活審議会答申素案」より）	
	3-1　地域での日常生活をめぐる課題への取組	33
	3-2　地域コミュニティの運営上の課題への取組	38
	3-3　地域活動を通じた生活の豊かさや生きがいの創造への取組	39
第３章	**評価・検証のまとめ**	**40**
	1　県民交流広場事業の成果	40
	2　県民交流広場事業の課題	41
	3　評価・検証を踏まえた今後の展開	42
〔参考〕	**実施地区の自己点検等の結果概要**	**43**
	1　「地域コミュニティの活性化につながっている」	43
	2　項目ごとの点検結果	43
	3　県民交流広場事業に対する市町の意向	44
	4　その他県民局や制度全般に対する意見	44
	5　地域の自己点検に対する県民局の評価	45
	6　県民局による課題事例の抽出	45
	7　広域推進委員会委員長の意見	46
	8　現地調査の実施	48
	※ 県民交流広場事業の問い合わせ先	61

第１章　県民交流広場事業の評価・検証の趣旨

1-1　いまなぜ県民交流広場か

県民交流広場は、以下のような地域コミュニティの課題解決や地域自治の向上に向けた活動、生活の豊かさや生きがいづくりにつながるような自立的・自発的な取組を支援する事業であり、参画と協働によるコミュニティの再生・構築をめざしている。

◆　地域コミュニティでの日常生活をめぐる課題

今日、少子高齢化や都市化の進展など社会環境が急速に変化する中、都市部における人的つながりや共同体意識の希薄化、農山漁村部での小規模集落の問題など、地域の活力や安全性の低下が深刻な課題となっている。現実の生活でも、高齢者や子供を狙った犯罪や家庭をめぐる悲惨な事件が続発しているほか、消費生活、防災、環境問題など様々な課題を地域は抱えている。

複雑化・多様化する諸課題の解決のためには専門的手法を要する場合も少なくないが、日常生活をめぐる課題に対して、地域コミュニティレベルで受け止め、地域の実情に応じて、人と人とが励まし合い助け合いながら、住民が自立的・自発的に対応していくことが不可欠である。

◆　地域コミュニティの運営上の課題への対応

「地域のことは地域で対応する」との地域自治に根ざした取組が求められているが、都市での単身世帯の増加や農山漁村部での都市化が進む中、地域への無関心層の増加や住民意識の低下が指摘されており、また、社会への貢献意識の高まりが見られる一方で、活動を担う人材の不足やNPOや他の団体との連携不足も大きな課題となっている。

このように基盤となる地域コミュニティの脆弱化が進んでおり、地域コミュニティの活力ある運営のために乗り越えなければならない課題が多くある。

◆　地域活動を通じた生活の豊かさや生きがいの創造

地域の課題に対して、住民一人ひとりの個性や創造性を発揮しながら、地域の実情に応じた対応を模索する取組は、地域のつながりや人々の交流を育むとともに、地域への愛着や関心を取り戻し、多様な主体との連携・協働の輪をひろげていくなど、とりも直さず一人ひとりの生活の豊かさを高め、生きがいを生み出していく行程でもある。

1-2　県民交流広場事業の概要

社会経済情勢の急速な変化を受けて、地域コミュニティは危機的状況に陥り、地域では様々な課題が顕現化した。そこで、コミュニティの重要性、役割が再評価され、再生への期待が高まる中で、県民交流広場事業がスタートした（平成16、17年モデル実施。平成18年から本格実施）。

○地域の人々が課題について話し合い、自主的・主体的に計画を作成して活動に取り組むなど、地域主体による包括的な取組を可能とした地域提案型の事業

○プラットフォームとしての拠点整備の助成と、拠点での活動に対する助成の組み合わせ

○単年度でなく複数年にわたる助成

などの新たな手法を取り入れたコミュニティ施策である。

◆事業の目的

勤労者をはじめとする県民一人ひとりが、概ね小学校区単位の身近な地域を舞台に、多彩な分野で実践活動・交流、生涯学習、情報収集・発信等に取り組むことができるよう、法人県民税超過課税を財源として、活動の場の整備と活動の立ち上げに要する経費を助成するとともに、コミュニティの担い手づくりなどの支援を行うこととしている。平成16、17年度のモデル事業実施を経て、平成18年度から本格展開している。

◆事業の概要

事業財源		第７期法人県民税（法人税割）超過課税収入 〔収入期間：平成17年11月～平成22年10月〕
選定期間		平成18年度～平成22年度（５年間）
助成要件	助成対象者	地域推進委員会（自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等地域団体やＮＰＯ、地域リーダーにより構成。既存組織も可）
	助成対象事業	コミュニティが取り組む活動の場の整備、及び新たな地域活動の立ち上げや充実
	助成対象地区	小学校区（ただし、コミュニティの実情に応じ、校区の統合・分割も可）
	助成限度額	１小学校区あたり：整備費10,000千円、活動費3,000千円とし、さらに校区の統合・分割に応じた助成額を設定
	特例措置	整備費・活動費間での配分変更（200万円限度）等
	地域選定	応募地域が作成した事業プラン（整備・活動内容、目標、収支計画等）の提案発表会を公開で開催し、専門家、地域団体関係者等からなる広域推進委員会の意見を踏まえ、県民局が選定 （審査事項） ・地域の意欲・主体性　・事業プランに関する地域合意 ・事業プランの実現性　・広場運営及び活動の持続性・自立性 ・市町の意見（市町コミュニティ施策との整合を期すため）
	助成方法	県民局から地域推進委員会に対し、概ね5年間で年度必要額を助成

1-3　県民交流広場事業の現状

◆　県民交流広場事業の実施地域数は、平成19年度末時点において、合計266地区（270校区）となっており、全829校区の33%で実施されている。

◆　平成20年２月に実施した事業点検によれば、回答のあった実施地区の84%、及び市町の85%において、「県民交流広場がコミュニティの活性化につながっている」と評価するとともに、地域ぐるみで開かれた広場運営がなされているなど、昨年度の事業点検結果に引き続いて、概ね良好に事業展開がなされている状況がうかがわれる。

◆　一方、広場事業に対する住民の関心が依然として低い等、「活性化につながっていない」とする地区も一部あり、また、住民参加の促進や人材育成、情報共有などの面で不安を有している地域も見られるなど、課題に対する対応やフォローアップに努めていく必要がある。

1-4　評価・検証の趣旨

◆　平成 18 年度から本格展開し、本年は本格実施３年目となると同時に、平成 22 年度までの計画期間（５年間）の中間年となる。

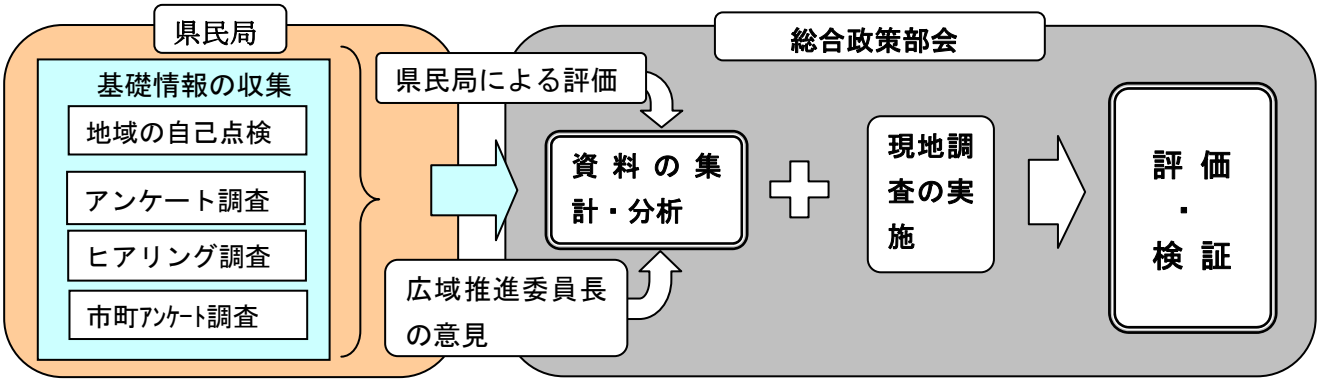
◆　この機会に、県民交流広場事業の効果や課題等をあらためて評価することにより、地域を主体とした包括的な支援の手法がどのように実践され、どのような成果を挙げているのか明らかにして、事業の一層の効率的な展開を図るとともに、成果の出ている事例やノウハウを抽出し、課題や問題点への対応の方向性や考え方を示すことで、実施地域での効果的な事業展開や自立に向けたフォローアップ、並びに新たな取組地域でのプランづくりや活動内容の充実に役立てる。

◆　また、県民交流広場事業を展開する中で、地域における「参画と協働」の取組がどのような効果を生んでいるのかを評価・検証し、広場事業での「参画と協働」の一層の浸透を図るとともに、他の事業・施策での「参画と協働」の展開促進に資する。

◆　この評価・検証を行う中で、県民交流広場で取り組まれている様々な自主的活動や先進事例を紹介し、あわせて課題や問題点も示すことによって、それらの資料を広場に関わる地域はもとより本県の各地域で共有し、地域と住民一人ひとりの個性と多様性を生かして地域を元気にする地域コミュニティの創造的再生に役立てるものとする。

1-5　評価・検証の進め方

◆　県民生活審議会総合政策部会において、毎年実施している実施地域による「自己点検」、「アンケート調査」等の基礎資料の収集・分析に付加して、新たに地域の自己点検に対する県民局の評価と、各圏域で地域選定等に携わっている広域推進委員会委員長からの意見聴取を行うとともに、さらに「参画と協働」、「地域コミュニティ再生」の視点からの考察を加え、委員による現地調査等※を行って評価・検証を実施した。



※○　実施地区による自己点検・アンケート調査等の結果　・・・　〔参考１～４〕
○　地域の自己点検に対する県民局の評価　・・・・・　〔参考５〕
○　県民局による課題事例の抽出　・・・・・　〔参考６〕
○　広域推進委員会委員長からの意見　・・・・・　〔参考７〕
○　委員による現地調査　・・・・・　〔参考８〕

第２章　評価・検証

評価・検証の視点

今回の評価・検証にあたっては、三つの異なる視点から検討を加えることとした。

一つは、事業の実施段階ごとの「効果的な事業展開の視点」。二つ目は、地域によるプランの見直しや「参画と協働」の取組状況など事業全般における「自主的・自立的な取組の視点」。以上の二つは、事業実施レベルでの視点であるが、三つ目として、広場事業の実施を通じて地域がどのように活性化しているかという「地域コミュニティ再生の視点」から考察を加えることとし、三つの視点、十の項目に着目して評価・検証を行った。

１　効果的な事業展開の視点から

1-1　地域推進委員会について

1-2　事業プランについて

1-3　場づくりについて

1-4　活動プログラムについて

1-5　コミュニティ内外の協働について

２　地域の自主的・自立的な取組の視点から

2-1　地域による点検と改善について

2-2　「参画と協働」の取組について

３　地域コミュニティ再生の視点から（「第７期県民生活審議会答申素案」より）

3-1　地域での日常生活をめぐる課題への取組

3-2　地域コミュニティの運営上の課題への取組

3-3　地域活動を通じた生活の豊かさや生きがいの創造

※・第２章に掲載の「地域の課題・悩み例」及び「地域の工夫例」には、参考のため、実施地域の採択年度と圏域の県民局名を記載しています。（例「⑲:西播磨」は、19年度採択の西播磨県民局管内の地域の意。「ﾓﾃﾞﾙ」は16年度または17年度にﾓﾃﾞﾙ事業として採択された地域）
・各地域での具体的な活動状況等をお知りになりたい方は、各県民局地域協働課、または県庁県民生活課（Ｐ61参照）までお問い合わせ下さい。

1　効果的な事業展開の視点から

1-1 地域推進委員会について
1-2 事業プランについて
1-3 場づくりについて
1-4 活動プログラムについて
1-5 コミュニティ内外の協働について

1-1　「地域推進委員会」について

1　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 予算、決算などが委員会内部で適切にチェックされている　（平均 4.4、前年 4.2）
- 地域の様々な団体が参画し、地域ぐるみの体制になっている　（同 4.1、同 4.0）
- 予算、決算は地域で公表し、必要に応じて誰でも見ることができる（同 4.0、同 4.0）

平均評点が低い項目

- 助成期間終了後も活動継続できるよう資金確保に取り組んでいる　（平均 3.5、前年 3.4）
- 住民の意見を反映しながら、民主的に運営されている　（同 3.9、同 3.9）

2　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　265地区（99.6%）
「点検結果に対して意見あり」：　1地区（ 0.4%）

(2) 「点検結果に対する意見」の具体的内容

資金確保の取り組みについて、まだ検討中であり、自己評価は少し高すぎる。

3　広域推進委員長の意見

(1) 基金管理について

- 会計の透明性は満点に近く、概ね運営状況は良好だが、推進母体が崩れると運営が苦しくなるので、評価の低い地区については何らかの助言が必要である。
- 事業展開に際しては、会計を含めてより一層の透明性が確保されるように指導していく必要がある。会報等の発行を通じて、より多くの住民に周知が図れるようにするなどすべきである。監査という点では、団体監査は甘くなる傾向にあるので、収支や経理のチェックをもっと厳格にさせるシステムにすべきとも思う。

(2) 資金確保について

- 行政には、資金確保のための様々な情報を地域に与えていくなどの支援が求められる。
- 立ち上げ直後は地域浸透の意味合いもあるので無料も仕方ないが、助成終了後を見据えて、参加料は徴収すべきだ。パソコン教室などは普通に教室に通うと高額な受講料がいる。そこまではいかなくてもニーズのある講座などからは受講料を取るべきだ。

(3) 委員会運営について

- 立ち上げまでには、十分な地域合意が図られていることが理想だが、現実的には、事業を展開してから現役員間や新旧の運営委員間でも不協和音が生じたりして、やる気を失せさせてしまうような事例も多いようだ。こういう時に、現運営委員がそれを乗り越えてでもやろうという意識を持てるかどうかが、今後の浮沈の鍵を握っている。団体の内外に、そうした際の愚痴の聞き役がいればずいぶん違うはずだ。
- どんな団体であれ、身内の立場からは異論ははさみにくいものだ。でも、理想としては、グループ内で活発に言い合いしながら、いざやるという時には結束してやれるという体制で臨んでもらいたい。地域内で異論を述べる人にも、何か活躍の場を与えてやることでうまくいくということもあるかもしれない。そういう工夫も地域でしていく必要はある。

4　地域の課題と工夫例

(1) 様々な団体の参画など地域ぐるみの体制について

《地域の課題・悩み例①》

■ 年齢的にもっと幅広い世代が関われるようなシステムや運営組織を作ればよかった
（ﾓﾃﾞﾙ:丹波）

《地域の課題・悩み例②》

■ 自治会内には女性の組織がないので今後の課題としたい（⑲:北播磨）

《地域の課題・悩み例③》

■ 河川再生のための活動をしたいという希望があるが、組織づくりや既存の地域団体をどう結びつけるかが難しい
（⑱:東播磨）

《地域の工夫例》

○ 地域コミュニティづくりには、地域のキーマンが必要。キーマンを中心に若手の人材もよく動いてくれた。（⑲:淡路）

○ 組織の役員以外で活動ごとにリーダーを配置する計画である（⑲:北播磨）

○ 組織内の役員に女性が就任し、各活動に参画してもらっている（⑲:北播磨）

○ 女性が主体的に動ける組織づくりに力を入れた（ﾓﾃﾞﾙ:丹波）

○ 連合自治会を核に過去から十分に連携できており、広場事業でも円滑に運営できる（⑲:神戸）

(2)「地域推進委員会」の民主的な運営について

《地域の課題・悩み例》

■ 具体的な運営を少数のスタッフだけで行い、登録協力団体への了解が後回しになって少し困ったことがあった
（⑰:阪神南）

《地域の工夫例》

○ 運営委員会を事業ごとに班分けし、十分協議を行い全員で活動展開した（ﾓﾃﾞﾙ:北播磨）

(3) 予算、決算のチェック体制等について

《地域の課題・悩み例》

■ 事務局が忙しすぎて体が持たないという状態である（⑲:淡路）

《地域の工夫例》

○ ボランティアスタッフを結成し、「事務局・施設整備・事業活動・会計」の４部門に組織化することで、スタッフの負担も軽減されている（⑱:阪神南）

(4) 助成期間終了後の資金確保の取組について

《地域の課題・悩み例①》

■ 最初の段階から部屋の使用料を徴収した方が良かった。途中からではとりにくいところがある（⑰:西播磨）

《地域の課題・悩み例②》

■ 各教室の受講料が高すぎると参加者が減少するし、低すぎると運営の継続が難しくなるので料金設定が難しい（⑱:淡路）

《地域の課題・悩み例③》

■ 助成金を初年度に集中したため、２年目以降の活動費が手薄になった（⑱:阪神南）

《地域の工夫例》

○ 将来にわたって活動を続けていくため、各種教室の参加者には１回あたり 700 円の参加費をいただいている（⑱:但馬）

○ 定期的にコンサートを開催しており、参加者には任意の額で参加費をいただいている（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）

○ 自治会や婦人会など地域団体からは使用料を徴収していないが、同好会的団体からはわずかではあるが(半日 300 円程度)使用料を徴収している（⑱:阪神北）

○ 初年度は必要経費のすべてを助成金から支出する方針で出発したが、将来を見越し、地域の参加各団体の独立採算性を進めている。見通しとしては助成金からの経費支出は減少する見込みである（⑱:中播磨）

5　評価・検証

(1) 様々な団体の参画など地域ぐるみの体制について

・ 地域推進委員会自体は、地域の様々な団体から構成されているが、実際の広場の活動や運営に携わっているのは、その中の一部の人に限られている状況も見られる。各団体等の運営への参画を一層促進する必要がある。

・ また、地域によって活動の主体が男性中心であったり、女性中心であったり、どちらかに偏る傾向も見られる。男女が共同した広い世代からの参画について今後とも留意していく必要がある。

(2) 「地域推進委員会」の民主的な運営について

・ 最初の組織の立ち上げ段階から広く住民の意見を吸い上げながら活動を展開することが最

も大切であり、住民や地域団体に十分に周知されないままスタートしたために、後になって地域で不協和音が生じ、広場活動が進展しない例もある。

・ 強力なリーダーの存在が求められる一方で、一部の役員の意見のみで運営されている例も見られる。

・ 事業の計画期間が経過していく中で、地域では少しでも早く事業着手したいとの思いもあり、ことさらに、住民の合意形成やプランの熟度には十分留意する必要がある。

・ 委員会の民主的な運営のためには、最低限のルールとして規約等を定めることが肝要であり、この部分では行政の支援も必要である。

⑶ 予算、決算のチェック体制等について

・ 基金管理は概ね適切になされている地区が多く、透明性の確保についても十分意識して取り組んでいる状況がうかがわれる。

・ ただし、運営が長期化するにつれ、また役員の交代などに伴って基金管理の処理やチェックが緩慢になったり、透明性確保の努力が薄れたりする恐れもあるので、今後とも実施地区に対する啓発・フォローアップに努める必要がある。

・ ボランティアの活用や部会設置等による役割分担を進めるなど、事務局の負担軽減に留意する必要がある。

⑷ 助成期間終了後の資金確保の取組について

・ 資金確保の取組については、実施地区でもその必要性を十分に認識しつつも、実際の取組は進んでいないところが多い。

・ 一方で、自治会費の増額や講座参加料、地場産品の販売収入などにより着実に資金確保を進めている地域もあり、このような先進事例の紹介をもっと進めていくことが重要である。

・ コミュニティビジネスと聞くと、敷居が高く受け取られがちであるが、フリーマーケットのようなものも含めて考えると地域で対応できるものは必ずしも少なくはない。

・ 本格的なレストランを開いている地域もあるが、活動の主目的は、レストランでの取組を通じて、日ごろから住民交流や地域活動に関わっていくこととし、資金確保の面はあまり重要視していないところもある。

・ ふれあい喫茶は比較的多くの地域で実施されており、人と人との交流には一定の効果が出ているが、将来を見据えた事業運営を図っているところはまだ少数であり、自立に向けた事業計画をきちんと立てておく必要がある。

・ 施設の活用が十分に進んでいない地域では、施設活用方策に資金確保のできる活動を取り入れることも含めて検討をしていくべきである。

・ 資金確保のためには、広場に地域以外からも人が訪れるような仕組みを考えることも必要である。

1-2　「事業プラン」について

1　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 策定したプランは、地域の課題や住民の意見を反映したものとなっている
（平均 4.0、前年 3.9）

平均評点が低い項目

- 事業プランは、住民に十分周知されている
（平均 3.9、前年 3.7）
- 事業プランづくりにあたって、広く住民の意見を聴く機会を設けた　（同 3.9、同 3.7）

2　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　264地区（99.2%）

「点検結果に対して意見あり」：　2地区（ 0.8%）

(2) 「点検結果に対する意見」の具体的内容

- 事業プランの自己点検は５点となっているが、工事期間が長引き、当初予定の活動が実施できていない。
- 事業プランの進捗に若干の遅れが生じている。

3　広域推進委員長の意見

- 事業プランは、住民によく周知されている。
- 活動を継続させるための工夫として、県や市町の広報紙などに、各地域の活動を紹介し、成功例やアイデアなどを情報交換することが必要である。掲載されたところは励みになるし、他の地域は活動の参考になる。ホームページで紹介しているといっても、インターネットは使わない人がまだ多い。

4　地域の課題と工夫例

(1) 住民からの意見聴取、プランの住民への周知について

《地域の課題・悩み例①》

■ 応募の時点で、各種団体が話し合う時間があまりなかった。十分練って、みんなが納得して応募する必要がある。　（⑱:東播磨）

《地域の課題・悩み例②》

■ 改修工事前には、いろいろと話し合って決めた改修工事でも、できあがった後でもう少し「〇〇」をしたらよかったということも出てくるので、十分すぎるくらい打ち合わせが必要だと思った　（⑲:神戸）

《地域の課題・悩み例③》

■ 地区内に自治会の結成されていない地域もあって、周知が徹底できていない面がある。何とか地区の隅々までＰＲが行き渡るようにしたい　（⑱:阪神北）

《地域の工夫例》

〇 実行委員会形式で企画や協議、ヒアリング等を実施した結果、地域の要望をすべて聞くことができた。さらに、これまで施設を使用していなかった団体とも意見交換ができた（⑲:神戸）

○ 計画作成前にどのような整備、活動を希望するか地域にアンケートをとった（⑲:東播磨）

○ 焦らず時間をかける。全戸配布などなるべく地域全体に周知することは不可欠（⑱:阪神南）

○ 意見箱を設置して広く住民の意見を徴収するようにした（記名式）（⑲:西播磨）

○ 地区の各種企業の代表者及び地区から地区外へ勤務している人たちから見た地域や、何を地域に求めているかを聞く会議を持ち、意見が反映できる事業を展開するように努めている（⑲:丹波）

○ 「食」「情報」「健康」「環境」「心」の五つのテーマを設けてアンケート調査を行い、寄せられた希望に基づき実践活動を展開している（⑱:淡路）

○ 各事業の計画、実施にあたっては情報の共有化を図り、住民が何を求めているかを知り、その要望を受け入れた活動である「ふれあい喫茶」は住民が気軽に利用し、活発な交流活動から一定の成果が上がっている（⑲:淡路）

(2) 地域課題等を反映したプランづくりについて

《地域の課題。悩み例①》

■ 当地区は高齢者率が 33%で２～３年後には 40%に達すると予想される。県民交流広場事業を取り組むにあたりビジョン委員会を立ち上げ、５年後 10 年後先を見据えた活動の予定を立てれば良かったと反省している
（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）

《地域の課題。悩み例②》

■ 地元の自然環境を保全、活用しながら地域を活性化するうえで、「思い」の共有を進めているが、いろいろな立場にある人が地域づくりの共通認識を持つことの難しさを感じている
（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）

《地域の課題。悩み例③》

■ 広場としての取り組みに対して地域住民や広場の中でも考え方や活動に温度差があるように思われる
（⑱:淡路）

《地域の工夫例》

○ 県民交流広場の立ち上げの際、コミュニティ応援隊（ＣＡＴ）により広場の趣旨を地域の人に知ってもらい取り組んだことが、後になって効果があった。「人の世話だと思うな。自分の家だと思って取り組もう」をモットーに、地域の歴史、成り立ちを先ず知ることからスタートした。地域を知らないと広場事業の運営はできない（⑲:淡路）

○ 自分たちの地域の特性について理解し、何のために何をするのかと言うことを地域全体で考え、思いを共有していくことが重要（⑱:阪神北）

○ 団体間の連携協力、共通理解を図り、地域全体の活動に広がるよう力を注いだ（⑱:北播磨）

○ 地域住民の関心をどう引くかに注力した。会合の折りに広場の話をした（⑲:西播磨）

５　評価・検証

⑴ 住民からの意見聴取、プランの住民への周知について

・　事業プランづくりにあたって、何度も重ねて協議を行った地区や全戸にアンケート調査を実施した地域など、地域ぐるみのプランづくりのための工夫が多く見られる。

　一方で、一部の役員等でプランづくりや事業申請を進めたために、後で見直しが必要になった事例もある。特に、事業の趣旨が十分に理解されず、単に施設改修を目的にしたような事業プランを考えている事例もあり、事業趣旨の徹底ときめ細かな対応が求められる。

・　住民から意見を聴取することは、同時にプランや活動を住民に周知することにもつながる。

⑵ 地域課題等を反映したプランづくりについて

・　地域の課題が何なのかをみんなで話し合って把握し、それに向けた取組を行っているところは、活動も盛り上がって活気が見られる。同じように料理教室を行っているところでも、地域課題に関連づけて実施している地区とそうでないところとでは、取組意欲も異なり、活動の成果や継続性にも差が生じてくると思われる。地域課題の把握の重要性をもっと認識する必要がある。

・　これまで参加していない人にも参加してもらうためには、日曜日に広場を活用するようなプランを考えてみるのも必要である。

・　地域によっては、特定の活動に特化した取組を行っているところもあるが、本来、広場はいろんなプランを取捨選択しつつ活動の輪を広げていくことのできる多機能性を有している場であるので、できるだけ幅広い活動に活用すべきである。

●宝塚市西谷（にしたに）地区⑰

◆自治会や婦人会、老人会をはじめ、NPO 法人等 20 数団体によって地域推進委員会（まちづくり協議会）を構成。恵まれた自然環境の中で、「自然と共生しながら、いかに安全で快適な生活が送れるか」等を地域課題として団体間の連携を通じた各種の活動に取り組んでいる。

1-3　場づくりについて

1　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 施設は誰もが気軽に利用できる状況になっている（平均 4.4、前年 4.4）
- 子供から高齢者まで、誰もが使いやすいよう配慮した施設になっている（同 4.3、同 4.1）
- 事業プランの活動が適切に展開できるような整備がされている（同 4.2、同 4.1）
- 施設の管理・運営に誰でも意見を出し、検討される仕組みがある（同 4.1、同 4.2）
- 既存の施設・備品の活用など、効率的な整備をしている（同 3.9、同 4.0）

2　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　261地区（98.1%）

「点検結果に対して意見あり」：　5地区（ 1.9%）

(2) 「点検結果に対する意見」の具体的内容

- 19年度に拠点整備をしたところであるため、自己評価は高くないが、映像システムを利用した研修会や映写会を通じた高齢者の憩いの場づくり、小学校や幼稚園と連携した活動など、今後の活動の展開が期待できる。
- 施設改修について計画の遅れが見られる。
- 新築施設を予定していたが、地盤に問題があることが判明し、そのため、建設費が大幅な増額が見込まれることから、現在、地域において対応を検討中。
- 拠点施設が集落から離れていることから通常の活動がしにくく、イベント時の利用に限られ、また、冬季の積雪により利用期間が短い。
- ２校区が統合した地区であるが、施設が立地している地区の住民の利用がほとんどとなっており、校区全体の拠点としての認知度はまだ低い。

3　広域推進委員長の意見

- 校区の中の１自治会の公民館が拠点となっているところがあるが、そのようなところは、時間がたてば地域の拠点ということが忘れ去られるおそれがある。校区の拠点として継続してやっていけるよう意欲をもって活動を展開してほしい。

4　地域の課題と工夫例

(1) 活動プランに応じた施設の整備について

《地域の課題・悩み例①》

■ 備品を含めて、もっと料理実習室の整備を充実すればよかった
（⑱:中播磨）

《地域の課題・悩み例②》

■ パソコンに関心を寄せる中高年が多く、予想以上の参加者があった。しかしパソコンの台数が少なく、一度に多くの受講生に対応することができないため週４回というハードなスケジュールをこなしてきた
（⑱:淡路）

《地域の課題・悩み例③》

■ 高齢者が日々気軽に出かけられるような場所の提供が必要だと感じている
（⑱:阪神南）

《地域の工夫例》

○ 部屋を分けたりくっつけたりできる仕切を付けているので、多くの活動や色々な行事に対応することができる（⑱:神戸）

○ 地域の財産である歴史的な施設を再利用することで、共有意識が高まり、新しい地域づくりの拠点となる（⑲:丹波）

○ 施設が災害時の一時避難場所となっているため、施設のバリアフリー化を図り、停電時に対応できるよう自家発電機を購入した。自家発電機は地域の納涼大会等でも活用している（⑱:北播磨）

(2) 誰もが気軽に使用でき、子供も高齢者も使いやすい施設の整備について

《地域の課題・悩み例》

■ 道路からの進入路に段差があり、お年寄りなどに不便。特に夜間の利用時はつまずくことがあって危ない
（⑱:阪神北）

《地域の工夫例》

○ 高齢者の利用に配慮し、ﾊﾞﾙｱﾌﾘｰ化に心がけた。特にふれあい給食が現公民館では調理室が２階にあり、階段の上がり下りに苦労されており、今回整備した別館の会議室を利用してもらうことにより解消される（⑲:中播磨）

○ 思い切って床暖房を設置したので、乳幼児からお年寄りにも優しい施設となって利用者に大変好評（⑱:阪神北）

○ 和室の洋室化や活動ｽﾍﾟｰｽの拡張を行ったことで地域文化発表会を実施することができた（⑱:神戸）

○ トイレの改修については、女性や高齢者の意見を聞いて洋式と和式の両方を整備した（⑱:丹波）

○ 住民が事務所へ申し出るだけで自由に使えるようにして、好評を得ている（⑲:中播磨）

○ 地域の方々に親しまれる拠点施設とするため名称を公募して決めた（⑱:丹波）

(3) 不要品の活用など効率的な整備について

《地域の課題・悩み例》

■ 当初コピー機をリースしたが、リース料が高額で失敗だった
（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）

《地域の工夫例》

○ 備品はリサイクル商品で対応〔テレビ、冷蔵庫、パソコン関係〕（⑲:北播磨）

○ 不要図書を市からもらった（⑱:西播磨）

○ 備品の整備に地元企業スポンサーから提供を受けた（⑱:西播磨）

○ 無駄のない予算執行に心がけ、学校と広場で共用できるものはそれぞれ活用し必要最小限の備品の導入を図ることとした（⑲:淡路）

○ 味噌加工に必要な器具は地域内の経験者で、概ね手作りにより調達できた。これにより地域の住人も関心が高まり協力的であった（⑱:北播磨）

(4) 施設整備に係る事業趣旨の浸透等について

《地域の課題・悩み例》

■ 「屋根の改修」や「外壁の修理」など、本来は施設管理者の責任で行うような工事でも、広場事業で対応できるのか

《地域の工夫例》

○ 整備の内容は、当然、活動内容との関連性を考えた上で検討している

○ 市の支援など、広場事業以外にも活用できる制度は活用した

○ 県の公園整備事業と連動して整備したので、広場事業の経費は節約できた（⑱:西播磨）

5 評価・検証

・ 場づくりについては概ね良好に進捗しており、また、誰もが気軽に利用できる状況が広く浸透しているが、地域によっては、周知が十分でなく利用者が限られている場合も見られることから、引き続き情報発信していく必要がある（ 施設の存在自体が地域内であまり知られていないところもあり、活動内容等のＰＲにあわせて広場の場所を広く住民に周知する必要がある。)。

・ また、地域に残る古民家などを活用して拠点施設にしている事例では、郷土に対する住民の誇りや愛着心が芽生えて、地域の一体性の醸成に役立っている地域もある。

・ 一方、せっかく整備された施設であるが、利用時間帯が短時間に限られていたり、行事や活動の開催頻度が少ないために、十分に施設が活用されていない事例も見られる。施設の有効活用に向け、活動の一層の充実が望まれる。参加していない人の参加を促すため、日曜日などの事業実施なども検討すべきである。

・ 施設の改修などを、行政が主導的に行うようなことは事業の趣旨に反するものであり、新たな取組や活動の充実につながるよう、住民が十分自覚して臨むことが必要である。

・ 整備内容に係る必要性の判断にあたっては、「活動との関連性」「費用対効果」「自助努力の状況」等の視点からより厳正な審査を行う必要がある。 特に、「屋根改修」「外壁改修」など活動との関連性が直ちに認めがたい工事や「カラオケ」「ピアノ」など必要性の精査を要する備品購入、そのほか常識的に見て高額と考えられる整備等について厳格に審査する。

・ 施設の整備の場合、どうしても後から「こうしておけば良かった」という部分が出てくることが多い。事前にできる限り多くの情報を集めて、協議を進めることが肝要である。

●稲美町天満南（てんまみなみ） 地区⑯

◆児童数の減により余裕の出来た小学校の空き教室を活用して広場を開設

熱意あるリーダーを中心に、「童謡唱歌」「手芸」「大正琴」「囲碁・将棋」「ｱﾚﾝｼﾞﾌﾗﾜｰ」「マジック」等の各教室や講座、住民交流のための「語らいｺｰﾅｰ」（週 3 日）の開設等、多彩な活動を活発に展開。（H17 年ｵｰﾌﾟﾝ当初の利用者 500 人/月→H20 年 1,500 人/月に増加）

◆広場を通じて、新旧住民の交流が進むとともに、地域住民が小学生と顔を合わす機会が多くなり、挨拶運動も活発化し、地域防犯においても効果が出てきている。

1-4　活動プログラムについて

1　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 広場の活動の参加者が固定されず、誰でも気軽に参加できる（平均 4.3、前年 4.4）
- 活動に多くの住民が参加するなど地域ニーズに即したものとなっている（同 4.1、同 4.0）
- 活動の情報を地域に十分にＰＲしている（同 4.0、同 3.9）
- 誰でも気軽に意見を出し、それを受け止めて検討する仕組みがある（同 4.0、同 4.0）
- 事業プランに沿って、新たな活動が立ち上がったり活動が充実したりしている（同 3.9、同 3.9）

平均評点が低い項目

- 活動内容は、地域の課題解決につながっている（同 3.88、同 3.9）

2　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　241地区（90.6%）

「点検結果に対して意見あり」　：　25地区（ 9.4%）

(2) 「点検結果に対する意見」の具体的内容

- 活動プログラムなどの評価が、３となっているが、小学校区内の他の地域団体との関係で広場事業として計画した活動を行えていない。
- 事業プラン、活動プログラムなど自己点検は５となっているが、工事期間が長引き、当初予定の活動が実施できていない。
- 工事期間が長引き、当初予定の活動が十分にできていないにもかかわらず、高い評価となっている。
- 自己評価は高くないが、新旧住民・多世代交流を目的とした取組や子育て、防犯活動など様々な地域活動に積極的に取り組んでおり、今後の成果が期待できる。
- 19年度に拠点整備をしたところであるため、自己評価は高くないが、映像システムを利用した研修会や映写会を通じた高齢者の憩いの場づくり、小学校や幼稚園と連携した活動など、今後の活動の展開が期待できる。
- 地域緑化を通じたまちづくりを中心に、多世代交流活動や防犯活動など活発に取り組んでいる。
- １地区１自治会で地域のまとまりは強く、多世代交流イベントや地域福祉のふれあい活動、環境美化、防犯活動など活発に活動を行っている。
- 最大評価としていないのは、今後の活動に向けて、さらに充実したものとするための意識の表れと思われる。
- コミュニティビジネスとして継続的な取り組みが期待できるが、当地区としての活動が大半で、小学校区全域へ活動が波及していない。
- 回答者の地域活性化に対する熱意も強く、自分が中心となって事業を企画・実施しており、事業の効果や今後の取組内容として求めるレベルも高いことから厳しい評価となっているが、企画・運営能力は高い。

- グラウンドを活用したイベントは活発に展開されているが、小学校体育館を活用した取組は低調である。
- 拠点を生かした給食サービス事業は収益も計上するなど、活発に展開されているが、こうした活動に今のところ特化しており、伝統芸能の継承や高齢者のたまり場等の事業は低調。
- 活動参加者が近隣住民に固定されないようにという問題意識を持ちながら、料理教室など、地域特性を生かした活動を実施している。
- 特に過疎・高齢化が著しい小規模地区ではあるが、危機感を持ち校区一体となったイベントなど活発な活動を実施している。
- 他地域と比較して全体的に評価が厳しくなっているが、他地域と比較して活動内容は遜色ない。
- 地域住民への広場事業浸透に課題がある。

３　広域推進委員長の意見

- 自己評価は高く既存事業の充実はみてとれるが、新規事業の立ち上げという面ではもう少しの感がある。
- ５年間で活動のノウハウを蓄積し、それをきっちりと伝えることが大切。
- 活動を継続させるための工夫として、県や市町の広報紙などに、各地域の活動を紹介し、成功例やアイデアなどを情報交換することが必要である。掲載されたところは励みになるし、他の地域は活動の参考になる。ホームページで紹介しているといっても、インターネットは使わない人がまだ多い。
- 市町合併後、大きな範囲で集約され、地域の個性が埋没しつつある中で、それぞれの持つ地域の良さを生かした活動が行われている。三世代交流などの少子高齢化への取組やコミュニティづくり活動への関心が高く、既存事業の拡充や新たな事業展開も見られる。郷土料理など食を通じての食育、地産地消への取組も多い。

４　地域の課題と工夫例

(1) 地域のニーズに即し、地域課題の解決に向けた活動内容について

《地域の課題・悩み例①》

■ 防犯パトロールや校門前の立ち番を実施しているが、地域の高齢者は車による児童の送迎に生きがいを感じ、そのため徒歩による児童の登下校は少なく、児童の見守り活動は当初の思惑から少し外れた感じとなっている。今後は学校、ＰＴＡとも協議し、効果的な実施方法を検討する　（⑱:淡路）

《地域の課題・悩み例②》

■ パソコン教室は若者から高齢者まで希望者が多く、研修ポイント、レベル等を十分把握できない状況でスタートし、反省点大である　（⑲:中播磨）

《地域の課題・悩み例③》

■ 郷土料理の伝承教室を実施しているが、若い年齢層、子ども達は肉、フライ等の現代料理を好み、郷土料理はなじめず、家庭の定番料理になるには短期間では浸透しにくい感がある　（⑱:淡路）

《新たな活動の具体例》

■学習会・講座の新設	２３地区
■パフォーマンス活動（イベント含む）	２０地区
■料理・食に関する活動	１２地区
■子育て支援・青少年育成活動	１１地区
■交流・サロン	１１地区
■福祉・健康増進活動	７地区
■広報・機関誌等の発行	７地区
■コミュニティビジネス関係	６地区　等

(2) 活動情報の地域への周知、ＰＲについて

《地域の課題・悩み例①》

■ まだ、地域の人たちでこの施設があることを知らない人がいるので、今後いろいろな場においてこのような施設があることを広める（⑲:阪神南）

《地域の課題・悩み例②》

■ チラシを読まない人がいて、なかなか知って欲しい層の住民の方に広まらなかった（⑲:但馬）

《地域の課題・悩み例③》

■ 地域情報誌の発行について、地域住民から原稿が自主的に投稿されることを目的としていたが、役員が原稿を作成しているのが現状であり、住民からの投稿を多くしたい（⑱:淡路）

《地域の工夫例》

○ 市の広報を利用することにより、イベントに参加する人が増えた（ﾓﾃﾞﾙ:阪神南）

○ ふれあい喫茶のギャラリーに校区内外の人の作品を展示しており、展示作品を入れ替えるたびに報道機関へ連絡し、紙面に掲載していただくように努めている（⑱:丹波）

○ 地域の活性化に力を入れる。「広報部会」にて年４回広報誌の発行（H20 年 8 月から）、将来は月２回発行予定（⑲:北播磨）

○ 活動事業の内容によって、部及び班を設けスタッフを配置している。そして各部及び班ごとに自主的に活動する事業について、企画から実施までを推進する体制にしている（⑱:阪神南）

○ 自主グループに担当を任せるようにしている　（⑲:阪神南）

○ いろいろな役割をできるだけ多くの方に分担してもらうようにして行きつつある（⑲:阪神南）

(3) 参加者が固定されず、誰でも参加できる仕組みについて

《地域の課題・悩み例①》

■ 子供を対象とした活動は、小学生や未就学児が中心で、中学生の活動の場がほとんどない。今後、中学生以上の子供が参加できる活動を検討していきたい（⑱:阪神北）

《地域の課題・悩み例②》

■ 地域が広いこともあり、高齢者に対する送迎を充実すべきであった（⑲:北播磨）

《地域の工夫例》

○ 活動の目的を幼・小・中学生対象の諸活動に絞って、その中に田植え体験など多彩な活動を展開している（⑱:中播磨）

○ 高齢者の参加率を向上させるため、送迎希望者をこまめに把握して、自家用車で送迎したところ好評であった（⑱:但馬）
○ 講座やイベントの内容は、地域住民の意見も取り入れて決めており、口コミで地域外からの参加者も少なくない（ﾓﾃﾞﾙ:東播磨）
○ パソコン教室では、地区内の若者に講師を依頼し、「一人でも多く参加しやすい雰囲気づくり」に心がけている（⑲:北播磨）

５　評価・検証

(1) 地域のニーズに即し、地域課題の解決に向けた活動内容について

・ 地域の意欲や熱意とも関連し、自己評価と実態に差が生じている場合があるが、概ね適正に評価されている。

・ 広場事業を契機に新たな活動を立ち上げた例も多く、地域活動の活性化に役立っている。

・ 他方、現状でも役員への負担が大きく、新たな活動まで手が回らない等、新しい取組への意欲が感じられない地域がある。

・ これまでは違う単位でのコミュニティ活動が行われていた地域でも、広場事業をきっかけに「小学校区」単位でのコミュニティづくりを進めることで、新たな活動のチャンネルがふえ、活動や交流の幅が広がることになる。

・ ノウハウの不足から、新たな活動に一歩踏み出すことへの不安を持つ地域も少なくない。

・ 他地域の情報を積極的に取り入れて、その中から自分たちでできることをどんどん「真似て」いくのも一つの方法である。

・ 広場事業だけで地域の活性化が図られるのではなく、地域課題に応じた他の行政施策を有効に活用することが重要であり、その意味では、地域にはあらゆる方面から地域課題に対応する幅広い視点が求められ、行政には適時・適切な情報提供等の支援が求められる。

・ 当初から確固とした資金計画を有している地域は少ないとの指摘がある。また、コミュニティビジネスに取り組むのは敷居が高いという地域もある。

・ 広場の活動と公民館活動など他の活動とを有機的に組み合わせたり、広場と施設の間を住民が行き来することによって、例えば高齢者と子供との交流が生まれるなど、事業の相乗効果が見られる事例もあり、今後の活動の参考になる。

(2) 活動情報の地域への周知、ＰＲについて

・ 広場活動を通じて、地域課題の解決に向けて活動を行うという考え方が十分に浸透していない場合がある。

・ 活動状況の地域内外へのＰＲについては、地域の自己評価は高く、それぞれに工夫が見られるが、単に周知するだけが目的ではなく、人に知ってもらうことで活動している人のやりがいや励みになる効果にも着目して進める必要がある。

(3) 参加者が固定されず、誰でも参加できる仕組みについて

・ 子供の参加できる行事を考えても、日曜日などは行事が重なって「子供のとりあい」になってしまうことが多いが、スポーツ行事を終えた後に広場で反省会を開くなど、広場を中心とした「場所つながり」についても工夫する必要がある。

・ 同じく、若い世代の参加についても、仕事を有していることなど困難な面はあるが、引き続き参加促進の方策を検討する必要がある。

1-5　コミュニティ内外の協働について

1　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 地域推進委員会を中心に自治会や老人クラブなど団体同士が連携して施設運営や活動に取り組んでいる（平均 4.0、前年 4.2）

平均評点が低い項目

- ｲﾝﾀｰﾈｯﾄのﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞや掲示板などにより、情報発信したり、地域内の意思疎通・情報共有のための工夫をしている（平均 2.6、前年 2.7）
- ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟや地域外の団体・個人と連携して活動を展開している（同 3.3、同 3.4）
- ﾘｰﾀﾞｰ、ｽﾀｯﾌなどの人材を育てる取組をしている（同 3.5、同 4.0）

2　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　258地区（97.0%）

「点検結果に対して意見あり」　：　8地区（ 3.0%）

(2) 「点検結果に対する意見」の具体的内容

- 新たなリーダーが育ちつつあるとの自己評価であるが、詳細は不明であることもあり、県民局としても状況を見守っていきたい。
- コミュニティビジネスとして継続的な取り組みが期待できるが、当地区としての活動が大半で小学校区全域へ波及していない。
- 全く新たな事業プランであり、住民に対しても十分周知しながら取り組んでいるが、壮大なプランであり行政等関係機関との一層の連携協力による事業展開が不可欠。
- 区長会、地区公民館が中心となって事業を実施しており、地域ぐるみで運営されている。また住民から備品の寄贈を受け、有効活用を図っている。
- 活動参加者が近隣住民に固定されないようにという問題意識を持ちながら、料理教室など、地域特性を生かした活動を実施している。
- 特に過疎・高齢化が著しい小規模地区ではあるが、危機感を持ち校区一体となったイベントなど活発な活動を実施している。
- インターネット等による情報発信については、比較的熱心に取り組んでおり自己評価は厳しすぎる。
- 地域住民への広場事業浸透に課題がある。

3　広域推進委員長の意見

(1) コミュニティ内外との協働について

- コミュニティ内での協働はできているが外との関係が難しいように感じる。コミュニティ外との協働のきっかけとなる場を提供する必要がある。
- 理想は、うまくいっているところからいっていないところへの支援があればいい。例えば、相談会や発表会をするなどヨコの交流が必要である。これは、同時に各地区の公開性も担保することになる。
- 校区単位での活動を進めるためには、地域と学校のつながりが非常に大切である。学校の協

力を得るため、教育委員会にも働きかけてほしい。

(2) 人材育成について

- どの地域も人材の育成に苦慮しており、この点についても支援が必要である。
- 人材の育成については、ほとんどの地域で今後の一番の課題と認識しているようではあるが、反面、「人材を育てるとはどういうことか？」ということがきちんと認識されているのかどうか心許ない面があるように思う。いずれにしても、広場事業の運営を特定の人以外にも参画してもらえるような取組が求められる。
- 区長は２年というのが多いが、やめたら後は知りませんということでは後が続かない。区長をやめた後も顧問や委員としてしばらくやってもらうところもある。後継を育てるとか人材を確保して、自立した組織づくりをすることが大切である。

(3) 情報発信について

- インターネットを使った情報発信が低い。ただ、本格的にホームページを作成しようとすると、人材と金が必要である。（阪神北・浮田委員長）

４　地域の課題と工夫例

(1) 人材の育成・確保について

◎人材の育成

《地域の課題・悩み例》

■ まちづくりの方やＰＴＡの方にも委員に入ってもらうようにはなったが、あて職なので年度ごとに人が替わる。新しい人材をどのように求めていくかが問題
（ﾓﾃﾞﾙ:東播磨）

《地域の工夫例》

○ 次世代の人材の育成を考え、今後は若い世代や子供を対象にした活動に力を入れていく（⑱:阪神北）

○ ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｽﾀｯﾌを募集し、人材の発掘・育成につなげ、後継者の育成を図ることに力を入れている（⑲:神戸）

○ 伝統的行事の復活をテーマに、古来から伝わる盆踊りの「太鼓打ち」や「音頭とり」の人材育成に取り組んでいる（⑱:但馬）

○ ボランティアの募集を定期的に各自治会の回覧を通じて行っている（⑲:神戸）

○ 協働体制づくりやリーダー研修に力を入れている。地域の人の活動チャンスを生かし、提案力を発揮できるようにしている（⑲：淡路）

◎人材の確保

《地域の課題・悩み例①》

■ 役員の交代によって運営について知っている人が不在となって困った
（ﾓﾃﾞﾙ:北播磨）

《地域の課題・悩み例②》

■ パソコン教室について、自主トレも兼ねて役員３名がボランティアで講師役を務めているが、継続的なパソコン指導者の確保が今後の課題である
（⑱:淡路）

《地域の課題・悩み例③》

■ ボランティアでお願いしている運営スタッフに継続的に関わってもらうのは難しい。特に大きな行事では、大勢のスタッフが必要となるが、スタッフ同士の人間関係を円滑にするための懇親会を持てないのが残念。大きな行事の後は、料理教室を同時開催して反省会を持つなど、スタッフ同士の懇親を図るための工夫が必要
（⑱:淡路）

《地域の工夫例》

○ 環境ボランティア・老人給食ボランティア・手作り石けんボランティアの人をスタッフに参加していただくことが重要。ボランティア活動をされている方は何事に対しても前向きであり積極的に取り組んでくださる（ﾓﾃﾞﾙ:中播磨）

○ 地元の人にパソコン教室の講師を依頼した（⑲:神戸）

○ 推進委員会を構成する各団体の代表者の任期を２年にしている。１年では馴れてきたところで交替することになり、引き継ぎもうまくいかない（⑱:阪神北）

○ ＰＴＡの役員運営委員に参加してもらい、役員期間終了後も引き続き加わってもらうよう働きかけている（⑱:阪神南）

○ 活動リーダーの掘り起こしは単なる募集だけでは集まらない。今後、活動方針や説明を加えて募集する（⑲:北播磨）

(2) 地域内の団体や NPO など他団体との連携・協働について

《地域の課題・悩み例①》

■ 活動内容が同じような団体同士での交流ができなかった
（⑱:阪神南）

《地域の課題・悩み例②》

■ 「ちびっこ音頭」を実施する際に近隣との連携が不十分であった。また、小学校の先生へのＰＲも不足していた
（⑱:北播磨）

《地域の課題・悩み例③》

■ 地域のことは地域で考えるので、ＮＰＯ等との連携の必要性はあまり感じていない
（⑲:中播磨）

《地域の工夫例》

○ 旧町単位で広場実施地域と運営上の悩みや課題について情報交換し、活動展開の参考としている。また、イベント情報を交換し、相互の事業に参加するなど運営上のノウハウを学んでいる（⑲:淡路）

○ 障害者施設との交流も図っている。カラオケなら歌は誰でも歌える。35 名程度の参加があり、利用者は拡大している（⑲:神戸）

○ 大学の先生が協議会の委員に入ってくれている。その影響は大きく、例えば学生の協力が得られ

るし、助成金の紹介や今後のまちづくりについても提言してもらえる（⑲:東播磨）
○ 保育園、小学校と連携することにより、子供達の参加が増え、親子や三世代交流事業の活性化にもつながった（⑱:淡路）
○ 組織の立ち上げ時には地元のＮＰＯが事務を手伝ってくれ、町や社会福祉協議会、教育委員会、及びスポーツクラブ 21 がフォローやアドバイスをしてくれるなど横の連携があった（⑲:東播磨）

(3) 情報発信や情報共有のための工夫について

《地域の工夫例》
○ 協議会のホームページを立ち上げ、情報発信している（⑲:東播磨）
○ ホームページが予想よりも多くの人に見てもらっている。もっと各年齢層にアクセスしてもらえるようデザインの一新を計画中（⑱:中播磨）
○ パソコンからのホームページアクセス件数には限界がある。現在、携帯電話 9,800 万台、パソコン 6,600 万台と携帯電話が主流になってきた。携帯電話から誘いかけてパソコンのホームページへ誘導しアクセス数を増やしていきたい（ﾓﾃﾞﾙ:丹波）
○ 地域自治協議会の設置時に、地域推進委員会独自のホームページを立ち上げ情報発信している（⑲但馬）
○ 市の広報を利用することにより、イベントへの参加者が増えた（ﾓﾃﾞﾙ:阪神南）
○ ふれあい喫茶のギャラリーに校区内外の人の作品を展示しており、展示作品を入れ替えるたびに報道機関へ連絡し、紙面に掲載していただくように努めている（⑱:丹波）
○ 地域推進員会の運営委員会を毎月 1 回定期的に開催し、構成団体間で情報交換を行っている（⑱:丹波）
○ 施設の拡充を積極的にチラシや回覧板などでＰＲしたことで、20～50 歳代の若い人や子供の参加が増加し、ふれあい喫茶の参加者が増えた（⑱:但馬）
○ 会議や事業の案内は、町内会を通じた全戸配布、隣保ごとの回覧、個人への通知（手紙、はがき）、掲示板への貼付など、郵送料等の経費節減のためその時々の手段を選択している（⑱:淡路）
○ 事業への積極的な参加を促すため、１年間の活動をまとめた「イベントカレンダー」を発行して全戸配布することで、親近感と活動への興味がわき上がり、参加者集めが容易になっている（⑲:淡路）

5　評価・検証

(1) 人材の育成・確保について

・ 地域の活動がうまく進展している地域では、活動を企画・運営する中心的な人物（キーパーソン）が存在し、さらにその周囲には豊富な人的ネットワークが形成されている事例が多く見られる。

・ 地域には人材が不足しているのではなく、ただ埋もれているだけとの指摘もある。

・ 一部の役員に負担が集中している実態から、役員就任が敬遠され、次の人材が出てこない地域がある。そのような担い手不足のために、新しい取組につながりにくい状況も生まれている。また、参加者が固定化する傾向が見られる地域がある。

・　地域での活動は地道で目立たないことが多いが、活動状況を適宜適切にＰＲすることで、活動へのやりがいや熱意も生まれ、ひいては新たな人材も現れやすくなる。
・　地域によっては、高齢者が役員を担わざるを得ない現状を肯定的に受け止め、「いずれは皆、高齢者になるのだから人材が途切れることはない」と前向きにとらえているところもある。
・　また、ボランティアの育成やＰＴＡ等を通じた人材確保など、工夫を凝らしながら熱意をもって取り組んでいる事例も見られる。
・　多様な情報を整理して、活動の方向性を的確に定めることのできるようなマネジメント能力のある人材育成・確保が重要である。
・　有能な人材であっても、地域に溶け込む努力は必要であり、また、地域も人材を受け入れるにあたっての度量の深さが必要である。

(2) 地域内の団体や NPO など他団体との連携・協働について

・　ＮＰＯとの連携については、地域性もあるが、なかなか進まない地域が多い。また、専門家・アドバイザーなどを嫌い、外部の人を呼んでも仕方がないという認識の地域がある。
・　多様な団体と連携することにより、活動の規模やメニューが広がるとともに、役割分担を進めることができるため、活動の活性化や継続的な実施に有効であることをもっと啓発する必要がある。
・　活動の上で特に連携しているわけではないが、企業から不要品等の提供を受けて備品にしたり、活動に役立てている地域もある。
・　児童の参加をきっかけにして親たちの活動参加を促進しようとする試みは各地で実施されており、その際、学校と連携して事業を実施している地区もあり、多世代交流の活性化に役立っている。

(3) 情報発信や情報共有のための工夫について

・　広場での活動が活発に行われている地域でも、住民の中には広場で何をやっているか知らない人も少なくないところもある。活動の継続、広がりのためには、活動内容についての情報を地域住民が共有することが不可欠である。
・　地域では、ＨＰの作成を通じて広場活動をＰＲするなど、インターネットを活用した情報発信が進められている。ただ、高齢者などでパソコンやインターネットに馴染みの薄い人も多くいることから、チラシや回覧板、広報誌等できるだけ多くの媒体を通じた情報発信に努める必要がある。
・　地域情報の共有は、人と人とのつながりの強化や、地域への帰属意識の高まりにもつながっていく。
・　広場で定期的に実施する行事について、一度参加した人が地域の知り合い等に声をかけ、参加者の輪が広がる「口コミ」による効果もある。

●尼崎市立花（たちばな）地区⑰

◆拠点施設は、当地区のコミュニティグループやボランティアグループの活動の場でもある。

◆人と情報のつながりから生まれる新たなコミュニティづくりをめざし、団体間の交流会や講習会等の開催、登録団体の活動パネルの展示、地域内外の情報掲示板の作成等を行っている。

２　地域の自主的・自立的な取組の視点から

2-1 地域による点検と改善について
2-2 「参画と協働」の取組について

2-1　地域による点検と改善について

１　実施地区による自己点検結果

平均評点が高い項目

- 活動の展開や施設の整備はプランどおりに進んでいる（平均 4.0、新項目）

平均評点が低い項目

- 明らかになった成果や課題をもとに、地域をより元気にしていく工夫をしている（平均 3.6、前年 3.6）
- できるだけ多くの住民が事業プランの進捗をチェックし、成果や課題を地域で共有している（同 3.6、前年 3.5）

２　県民局による評価

(1) 地域の自己点検結果について

「概ね適正である」　：　266地区（100％）

３　広域推進委員長の意見

- ５年間で活動のノウハウを蓄積し、それをきっちりと伝えることが大切。
- 事業展開が思ったほど上手くいっていない地域については、原因をつかんで、対策を講じていく必要がある。なんとなく活動状況がイマイチなのに、そのままで継続していくということでは、結局長続きしない。こういうやり方が一番問題では。失敗を恐れず、新しい手法を試みるという姿勢が生まれるようにし向けていく必要もある。方策を見出すためのワークショップ等の開催など、支援策を考えてみてもよい。

  他方、上手くいって一定の成果を上げている地域については、活動のグレードアップを期待して、当初以上の目標設定を新たにさせてみるのもよいかも。
- 地域交流の楽しさや地域の豊かさの発見を通じて、活動を継続的な楽しさに発展させていくなど、この事業をきっかけに世代や地域を結びつけていくことが重要である。また、その方向性を間違わないように、地域に対して動機を与え続けていくことが大事であり、勉強会や研修会等地域で学ぶ機会を提供していく必要がある。
- 今後の県の役割としては、人的資源を集めてコーディネーターとして地域に派遣する、例えば震災後の被災地の支援員的な役割を担ってもらえばいいのではないか。その場合には、コーディネーターには権限もお金も渡す必要がある。そのコーディネーターに地域に入ってもらい、人材の育成等を行ってもらってはどうか。
- 県民交流広場事業は、市の事業ではなく、県の事業であることを地域にも認識してもらう必要がある。この意味で、一層の啓発にも心がけてもらいたい。

4　地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例①》

■ できるだけ経費がかからないように、将来的な持続性を考えながら動いているので、計画がなかなか進行しない面がある
（⑱:阪神北）

《地域の課題・悩み例②》

■ 活動項目（メニュー）を拡げすぎた懸念がある
（⑲:北播磨）

《地域の課題・悩み例③》

■ 交流広場事業としてイベントに力を入れると各団体の負担が大きく、不満が出てくるため限度がある。日常の広場活動の充実が大切であるが、これはイベントより困難である
（⑱:中播磨）

《地域の工夫例》

○ 活動が軌道に乗り、経済的なものなどに関しても自立できるものは計画からはずし、よりグレードアップした活動ができるように計画の見直しをしていく（⑲:淡路）

○ 地域活動（ゴミ清掃（１年目）、健康体操（２年目）、学校との取組（３年目））などテーマを決めて行っている（⑲:神戸）

○ 事業は、重荷にならないもの、継続性のあるもの、過大にならないものを検討し、実施している。既存の事業、団体の事業も活用して、充実させている。何でも新しいことをやると言うことではない。その事業も参加者は多い。実施する側は最小限でしている（⑱:東播磨）

○ 文化祭の準備はこれまで役員数人でやっていたが、仕事の都合もあるので、運搬はシルバー人材センターを利用した。また、舞台の音響・照明装置は借り上げで行い、本格的な舞台になったことで発表者にやりがいが出た（ﾓﾃﾞﾙ:淡路）

○ １年半の活動で、当初考えていた組織を構成するには、スタッフがかなり揃っていないと無理であると分かったので、性急に結果を出すのではなく、少し時間をかけてやるぐらいのスケジュールで見直しを図りたい（⑱:阪神南）

5　評価・検証

・活動の充実と広がりが不十分な地域もあるが、この事業をきっかけにして世代間や地域間のつながりが深まっていくように、地域に対して動機を与え続けることが必要である。

・自己点検や「評価・検証」の結果を踏まえて柔軟に活動プランを見直すなど、活動の場に的確にフィードバックさせていく工夫も必要である。

・活動が十分に進まない場合には、どこに原因があるのか検討し、対策を講じていく必要がある。思い通りに進まなくても、次の対応を考えて努力していく過程にこそ本事業の意義がある。

・地域コミュニティの活性化に向けて、活動を振り返りながら、点検と改善を加えていく作業そのものが地域活力につながるものであり、広場事業の実施期間を５年としているのも、そこに意義がある。

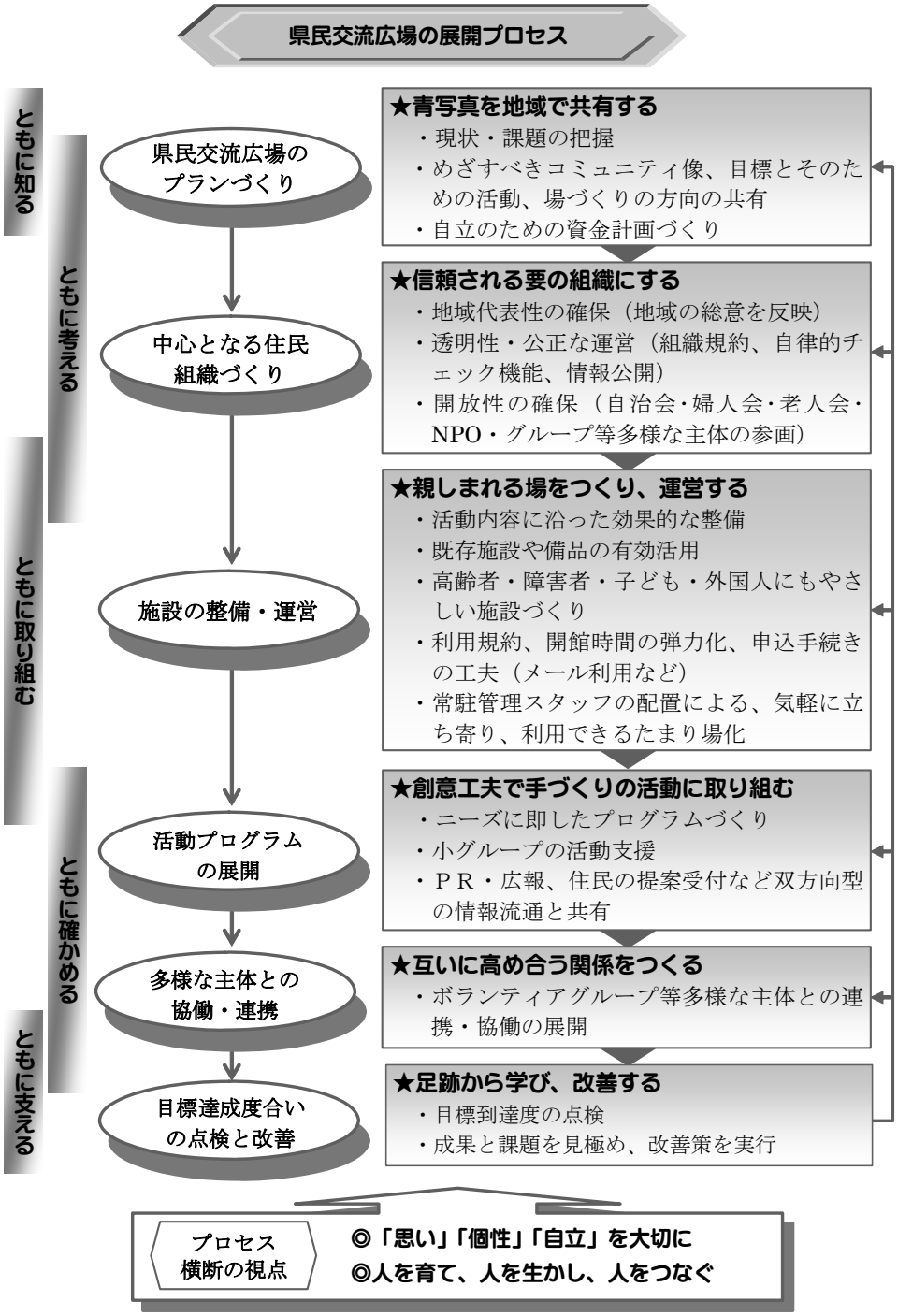
2-2　「参画と協働」の取組について

県民交流広場事業を実施する上で、地域の自主的・自立的な取組が非常に重要な要素であることから、特に「参画と協働」の側面から評価・検証を行った。

《 「参画と協働」の事業体系 》

県民交流広場は、事業の展開プロセスそのものが「参画と協働」の視点に基づいた事業体系となっており、事業の実施過程がそのまま「参画と協働」の過程であると言える。

しかしながら、事業実施の現場では様々な課題や悩みを抱え、思いどおりに進んでいない状況が見られる。一方で、工夫を重ねながら地域独自の取組方策によって課題を乗り越えている事例も現れている。



1　地域の取組状況

各地域の県民交流広場では、「参画と協働」の５つの過程（「ともに知る」「ともに考える」「ともに取り組む」「ともに確かめる」「ともに支える」）に応じた取組が行われている。

(1)　「ともに知る」

積極的に運営状況や活動状況の情報発信をし、住民間の意思疎通や情報共有を図る工夫がなされているか。

地域の課題や活動の状況など的確な情報が分かりやすく地域に行き渡ることは地域での参画・協働を進める上での基本である。地域では、多様な媒体による情報共有の試みが図られている。

○地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例》

■ 広報活動が重要であり、強化したいと思っていたが、地域への広報誌の配布方法等で課題があり、少し滞っているのが残念なところ（⑱:阪神南）
■ ＰＲ不足（場所、事業、すべて）…回覧よりポスターが良いようだ（⑱:阪神南）
■ まだ、地域の人たちでこの施設があることを知らない人がいるので、今後いろいろな場においてこのような施設があることを広める（⑲:阪神南）
■ チラシを読まない人がいて、なかなか知って欲しい層の方に広まらなかった（⑲:但馬）
■ 地域の広場でありながら、住民の認識不足でまだまだ浸透していない。今後、各世帯に楽しい広場の活動を知らせるような広報、ＰＲ方法を考えたい。また、広場事業についても県からの情報がおりてこなかったので、県の広報についても考えていただきたい（⑲:淡路）

《地域の工夫例》

〔ホームページの活用〕
○ 協議会のホームページを立ち上げ、情報発信している（⑲:東播磨）
○ ホームページを開設したところ反響が予想より大きく、より広く各年齢層に見てもらえるようにデザインなども考えていきたい（⑱:中播磨）
○ ホームページへのアクセス数をふやすために、携帯電話を利用したアクセスについて検討している（ﾓﾃﾞﾙ:丹波）
○ 地域推進委員会独自のホームページを立ち上げ情報発信している（⑲:但馬）
○ ホームページの開設･充実により、地域住民や各団体との情報交換を進めている（⑱阪神南）
○ 市の広報を利用することにより、イベントへの参加者が増えた（ﾓﾃﾞﾙ:阪神南）
○ ふれあい喫茶のギャラリーに校区内外の人の作品を展示しており、展示作品を入れ替えるたびに報道機関へ連絡し、紙面に掲載していただくように努めている（⑱:丹波）

〔独自の広報誌など〕
○ 広報部会が年４回広報誌を発行する予定であり、将来的には発行回数も増やしていきたい（⑲:北播磨）
○ ２ヶ月に１回、県民交流広場の広報紙を発行し、地域推進委員会の活動状況の報告を行っている（⑱:丹波）
○ １年間の活動をまとめた｢イベントカレンダー｣を発行し、全戸配布している（⑲:淡路）
○ 拠点施設（物産館）で観光振興などのための情報案内を行っている（⑱:但馬）
○ 地域住民に広場の運営、活動状況、事業の予告などの情報を伝えるため、写真を多用した情報誌やチラシを作成して全戸配布するなど、積極的に参加を呼びかけている（⑲:淡路）
○ 広く開かれた活動を展開するため、機関誌の発行を予定している（⑱:丹波）

⑵ 「ともに考える」

・ 広く住民の意見を反映した事業プランになっているか。

・ 誰でも気軽に意見を出し、全体で検討する仕組みがあるか。

誰でも自由に意見を出し合い、みんなで意見をまとめていく、ワークショップの手法はまちづくりの場で効果を発揮すると言われている。地域には様々な価値観を持った人々が暮らしており、多様な意見を出し合って一定の方向に合意形成していくためには、コミュニティ応援隊（ＣＡＴ）等の専門家による支援も効果がある。

○地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例》

■ 県の説明から申請までの検討時間が短く、全スタッフのベクトル合わせができなかった（⑱:阪神南）
■ 応募の時点で、各種団体が話し合う時間があまりなかった。土壌ならしが必要であった。十分練って、納得して応募すること、また助成金について明確な方向付けをすること（⑱:東播磨）
■ 当初の事業計画作成にもう少し時間をかけて検討すべきであった（⑱:東播磨）
■ 当地区は高齢者率が 33%で２～３年後には 40%に達すると予想される。県民交流広場事業を取り組むにあたりビジョン委員会を立ち上げ、５年後 10 年後先を見据えた活動の予定を立てれば良かったと反省をしている（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）
■ 地元の自然環境を保全、活用しながら地域を活性化するうえで、地域内で「思い」の共有ができていない部分がある。いろいろな立場にある人が地域づくりの共通認識を持つことの難しさを感じている（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）
■ 県民交流広場事業の必要性や趣旨が住民に浸透することも大切ですが、時間が必要だ（⑲:北播磨）
■ 県民交流広場の持って行き方がよく分からないままスタートしてしまった（ﾓﾃﾞﾙ:淡路）
■ 広場としての取り組みに対して地域住民や広場の中でも考え方や活動に温度差があるように思われる（⑱:淡路）

《地域の工夫例》

○ 実行委員会形式で全てを企画・協議する（ヒアリングを実施した）。結果、地域の要望を全て聞くことができ、満足している。さらに施設を使用していなかった団体との意見交換ができた（⑲:神戸）
○ 活発に議論できる場が、定期的にある（ﾓﾃﾞﾙ:阪神南）
○ できた結果だけを見たり真似をするだけでなく、自分たちの地域の特性について理解し、何のために何をするのかと言うことを地域全体で考え、思いを共有していくことが重要（⑱:阪神北）
○ コミュニティ推進協議会は最低２ヶ月に１回は開催しており、４役会は毎月開催して情報共有している（⑲:東播磨）
○ 団体間の連携協力、共通理解を図り、地域全体の活動に広がるよう力を注いだ（⑱:北播磨）
○ 県民交流広場の立ち上げの際、コミュニティ応援隊（ＣＡＴ）により広場の趣旨を地域の人に知ってもらい取り組んだことが、後になって効果があった。「人の世話だと思うな。自分の家だと思って取り組もう」をモットーに、地域の歴史、成り立ちを先ず知ることからスタートした。地域を知らないと広場事業の運営はできない（⑲:淡路）
○ 地域の課題解決を活動テーマにするとコミュニティづくりがしやすい。また参加を促しやすい（⑲:淡路）
○ 地域住民の関心をどう引くかに注力し、会合の折りに広場の話をした（⑲:西播磨）

(3) 「ともに取り組む」

・ 活動団体のリーダーやスタッフの人材育成をしているか。

・ 多様な主体（他の団体やボランティアグループ、ＮＰＯ、専門家、企業等）と連携しているか。

地域の中には、多様な人材やグループ、団体など貴重な資源が数多くあり、それらの資源を相互に結びつけて有効に活用していくことが肝要である。

○地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例》

〔人材の発掘に工夫が必要〕
■ 特技・ノウハウのある人を行事ごとに探す努力が足りなかった（⑲:神戸）
■ 今後、人材バンクとしての登録制とリーダー養成を図っていく（⑱:北播磨）
■ 個人公募をもっとすべきであった（⑲:北播磨）

〔人材確保のための工夫が必要〕
■ 事業ごとのスタッフへの補助が必要。実費程度（ガソリン代等）を支出するなど（⑱:但馬）
■ ボランティアの実質的な活動責任者が活動しやすいようバックアップが必要（⑲:中播磨）
■ 役員スタッフはかなり犠牲になっている部分がある（ﾓﾃﾞﾙ:淡路）
■ ボランティアでお願いしている運営スタッフに継続的に事業に関わってもらうのは難しい。（⑱:淡路）

〔人材の育成に工夫が必要〕
■ 協議会の後継者などとの和がうまくいかなかった（⑲:神戸）
■ 目新しさと内容の充実の二点を考えると大変困難である。特に参加者を増やすために目新しさを追うとリーダーが育ちにくい傾向がある（⑱:中播磨）
■ 毎年実施するミニ文化祭に先導役のリーダーを養成しておけば良かった（⑱:但馬）
■ パソコン教室で自主トレのため講師抜きで役員３名がボランティアで対応しているが、継続的なパソコン指導者の確保が今後の課題（⑱:淡路）

〔構成団体の役員任期に伴う継続性に工夫が必要〕
■ まちづくりの方やＰＴＡの方にも委員に入ってもらうようにはなったが、あて職なので年度毎に人が替わる。（ﾓﾃﾞﾙ:東播磨）
■ 指導者が替わればどうなっていくか、地域としては不安である（⑱:中播磨）

〔人材が固定化されている〕
■ 設立の経緯として、学校施設を利用するために町から指名された運営委員 12 名で協議会を立ち上げた。委員が固定されており、亡くなる方もいて役員が減っている。委員の構成を組織的、システム的に更新できるようにしたい（ﾓﾃﾞﾙ:東播磨）

▼

《地域の工夫例》

〔活動を通じた人材育成・確保〕
○ 地元の人にパソコン教室の講師を依頼した（⑲:神戸）
○ スタッフでの協力者は女性が圧倒的に多いが、中心者は男性のみで構成。今後、女性のリーダーの育成に力を入れていく（ﾓﾃﾞﾙ:阪神北）
○ 次世代の人材の育成を考え、今後は若い方や子供を対象にした活動に力を入れていく（⑱:阪神北）
○ パソコン教室において、地区内の若者に講師を依頼、「一人でも多く参加しやすい雰囲気づくり」に心がけている（⑲:北播磨）
○ ボランティア活動をされている方は何事に対しても前向きであり積極的に取り組んでくださる（ﾓﾃﾞﾙ:中播磨）
○ 伝統的な行事の復活をテーマに、盆踊り事業を実施し、古来から伝わる「太鼓打ち」や「音頭とり」の人材育成に取り組んでいる（⑱:但馬）

〔呼びかけ〕
○ 今まで活動していない人に声かけ（奥さんに頼んでご主人に声をかけてもらったり）（⑲:神戸）

○ 活動リーダーの掘り起こしは単なる募集だけでは集まらない。今後、活動方針や説明を加えて募集する（⑲:北播磨）
○ 参加団体の役員だけでなく広く住民が集える場として利用できるよう、また、計画事業にも関わっていただきたく、ボランティアスタッフ募集のチラシを作り回覧した（⑲:中播磨）

〔他団体との連携や地域内の人材の発掘〕
○ 運営委員にＰＴＡ副会長に加わってもらっている。また、喫茶スタッフは誰でもできるよう熟練者から習っている（⑱:阪神南）
○ 地域内の色々な面で特技の持ち主（例：絵の得意な人、工作の得意な人など）を発掘し、その人達の作品の展示を行う。そのことが住民の積み上げになっている（ﾓﾃﾞﾙ:西播磨）

〔その他〕
○ 動員をかけたり強制的な参加を求めると長続きしない。自主的に集まってくる人を大切にし、活動している人たちが生き生きと活動するのが大切（⑲:淡路）
○ 役員は率先垂範することが必要で、自然と周りの人が協力してくれた。特に女性の支援力、団結力は素晴らしく、地域の活性化につながっている（⑲:淡路）

(4) 「ともに確かめる」

多くの住民が関わる形で進捗をチェックし、成果や課題を共有しているか。

事業目的や活動プランが効果的に実現されているか、処理は適正かといった「評価」は取組の充実を図るためにも、また地域への説明責任を果たす上でも重要であり、また適切に評価することによって、人々のやる気の醸成や励みにもつながっていく。

○地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例》

■ できるだけ経費がかからないように、将来的な持続性を考えながら動いているので、計画がなかなか進行しない面もある（⑱:阪神北）

《地域の工夫例》

○ 活動が軌道に乗り、経済的なものなどに関しても自立できるものは計画からはずし、よりグレードアップした活動ができるように計画の見直しをしていく（⑲:淡路）

《地域の課題・悩み例》

■ 活動項目（メニュー）を拡げすぎた懸念がある（⑲:北播磨）

《地域の工夫例》

○ 地域活動(ゴミ清掃(１年目)、健康体操(２年目)、学校との取組(３年目))などテーマを決めて行っている（⑲:神戸）

《地域の課題・悩み例》

■ 交流広場事業としてイベントに力を入れると各団体の負担が大きく、不満が出てくるため限度がある。日常の広場活動の充実が大切であるが、これはイベントより困難である（⑱:中播磨）

《地域の工夫例》

○ 事業は、重荷にならないもの、継続性のあるもの、課題にならないものを検討し、実施している。既存の事業、団体の事業も活用して充実させている。何でも新しいことをやるということではない。その事業も参加者は多い。実施する側は最小限でしている（⑱:東播磨）
○ 文化祭の準備は従来は役員数人でやっていたが、仕事の都合もあるので、運搬はシルバー人材センターを利用した。また、舞台の音響・照明装置は借り上げで行い、本格的な舞台になったことで発表者にやりがいが出た（⑰:淡路）

(5) 「ともに支える」

みんなで参画・協働できる仕組み・体制がつくられているか。

地域の組織は、人材不足などにより役員への負担が増加するなど多くの課題を抱えており、このようなときこそ、誰でも参加できるような組織づくりや広い世代、多様な団体からの参画を求める取組が重要となっている。

○地域の課題と工夫例

《地域の課題・悩み例》

■ 若い人を取り込めなかった。何をすればいいのか手探り状態(⑱:東播磨)

《地域の工夫例》

○ 高齢者が多く、高齢化率が最も高い地域(校区)であることから、地域に元気を取り戻すため、若者の参加を図る事業を取り入れたところ、予想以上に集まった(⑱:但馬)

《地域の課題・悩み例》

■ 一部の人だけに限らず、もっと多くの人々に携わってもらえるような環境整備が必要であった(モデル:淡路)
■ 平日の事業や三世代交流では中間層の年代、生きがい学習講座では若者の参加が少ない(⑱:淡路)

《地域の工夫例》

○ ふれあい祭りを昨年初めて開催した。今までの活動では子供のみ、老人のみと対象が限定されていたが、ふれあい祭りでは、老若男女問わず、いろいろな世代の交流ができ評判も良かった。なくしてしまった行事を復活させたい(⑲:東播磨)
○ 団体間の連携協力、共通理解を図り、地域全体の活動に広がるよう力を注いだ(⑱:北播磨)

《地域の課題・悩み例》

■ 自治会内には女性の組織がないので今後の課題としたい(⑲:北播磨)
■ 年齢的にもっと幅広い世代が関われるようなシステムや、運営組織を作れば良かったと思う(モデル:丹波)

《地域の工夫例》

○ 女性の組織内の役員としての参画や、各活動への参加に留意している(⑲:北播磨)
○ 地域全体でのまちづくりを目指してきたので、推進協議会の構成にはすべての団体・グループで組織している。小学生にも参加を促すためPTA役員、小学校長も組織メンバーに入っている(⑰:淡路)

２　広域推進委員長の意見

⑴「ともに知る」

● 活動を継続させるための工夫として、県や市町の広報紙などに、各地域の活動を紹介し、成功例やアイデアなどを情報交換することが必要である。掲載されたところは励みになるし、他の地域は活動の参考になる。ホームページで紹介しているといっても、インターネットは使わない人がまだ多い。

⑵「ともに考える」

● 市町合併後、大きな範囲で集約され、地域の個性が埋没しつつある中で、それぞれの持つ地域の良さを生かした活動が行われている。三世代交流などの少子高齢化への取組やコミュニティづくり活動への関心が高く、既存事業の拡充や新たな事業展開も見られる。郷土料理など食を通じての食育、地産地消への取組も多い。

⑶「ともに取り組む」

● 人材の育成については、ほとんどの地域で今後の一番の課題と認識しているようではあるが、反面、「人材を育てるとはどういうことか？」ということがきちんと認識されているのかどうか心許ない面があるように思う。いずれにしても、広場事業の運営を特定の人以外にも参画してもらえるような取組が求められる。

⑷「ともに確かめる」

● 地域交流の楽しさや地域の豊かさの発見を通じて、活動を継続的な楽しさに発展させていくなど、この事業をきっかけに世代や地域を結びつけていくことが重要である。また、その方向性を間違わないように、地域に対して動機を与え続けていくことが大事であり、勉強会や研修会等地域で学ぶ機会を提供していく必要がある。

⑸「ともに支える」

● コミュニティ内での協働はできているが外との関係が難しいように感じる。コミュニティ外との協働のきっかけとなる場を提供する必要がある。

３　評価・検証

・ 県民交流広場事業は「参画と協働」の視点に基づいた事業体系になっているが、実際に活動を行う局面では様々な課題に直面し、活動が立ち止まったり、プランの変更を余儀なくされるなど、企図したとおりに広場事業が進展しない状況が各地で見られる。

・ また、広場活動に参加していない人たちに広場での取組が十分に伝わらないために閉鎖的な活動として受け取られている地域もある。

　一方では、当面する課題を地域のみんなで共有し、解決に向けて意見を出し合い、対応策を見出すことで難局を乗り越え、活動の展開や広がりにつなげている事例も多くある。

・ このように広場事業の展開においては、みんなで地域の課題を把握することから始まり、活動プランや組織をつくり、施設を整備して様々な主体との連携によって活動の展開を図るという、事業実施のプロセスの一つひとつが「参画と協働」の実践例であり、その中では様々な課題や障害も現れてくるが、それらに対して地域ぐるみで工夫をして乗り越えていこうとする営みも「参画と協働」の取組であると言える。

・ 以上のような取組を通じて、県民交流広場事業は地域コミュニティの活性化に役立っているところであり、この「参画と協働」の手法は、今後の様々な施策展開の中で参考とすることができると考える。

3　地域コミュニティ再生の視点から

県民生活審議会における「地域コミュニティの再生」の議論を踏まえ、地域コミュニティの課題解決や地域自治の向上に向けた取組の視点から、評価・検証を行った。

3-1 地域での日常生活をめぐる課題への取組
3-2 地域コミュニティの運営上の課題への取組
3-3 地域活動を通じた生活の豊かさや生きがいの創造

3-1　地域での日常生活をめぐる課題への取組

1　地域の取組状況

県民交流広場事業では、それぞれの地域の課題を見つめ直し、地域コミュニティの活性化のためにはどのような活動が必要なのか、そのためにはどのような拠点施設を整備すればいいのか、等について地域のみんなで検討がなされ、それぞれの地域課題に応じた取組が行われている。

(1)　子育て

少子高齢化や核家族化の進行に伴い、家庭や地域の子育て機能の低下が課題となっており、保護者の中には育児不安に陥ったり、育児に負担を感じている人たちが増加している。

また、家庭や地域の教育力の低下も指摘されており、基本的な生活習慣が身につかず、集団生活の体験も乏しいことなどから、小学校入学後等にいじめや問題行動を起こす児童もふえている。

県民交流広場では、全実施地区（266地区）のうち、母親悩み相談や子供の居場所づくりなど「子育て支援活動」を行っている地区は62地区（23%）あり、また、県民交流広場の中で「まちの子育て広場」を実施しているところも53地区（20%）あるなど、子育てを活動テーマに位置づけている地区は多い。

●西宮市越木岩（こしきいわ）地区⑱

「守れ！伝統文化～ちびっこおはやし隊」

◆都市に受け継がれている貴重な伝統文化を守るため、広場事業で、太鼓や二丁鉦（にちょうかね）、半鐘（はんしょう）を整備更新した。

◆伝統行事のだんじり巡業、壱番地車の鳴り物を担当する「おはやし隊」は、地域の将来の担い手となる小学生の子供たち。「おはやし」などを通して、地域の大人たちが子供たちに地域の歴史や伝統文化を継承している。

●加東市鴨川（かもがわ）地区⑱

「地域こども教室」

◆過疎化が進む中で、子供の居場所づくりと健全育成を図るため、毎週水曜日に、学校の協力を得て児童全員参加で実施。指導者は地域のボランティア。

◆教室の内容は、折り紙、工作、読み聞かせ、グラウンドゴルフ、蕎麦づくり体験など。その他、子供たちでルールを決めて自由に遊んでいる。

このほか、宝塚市長尾台（ながおだい）地区では、高齢者が子供たちに木工細工や様々な遊びを教え、多世代交流が促進されており、また、播磨町播磨（はりま）地区では、芸術文化活動による心豊かな地域づくりをめざして、青少年の健全育成の一環として、少年少女合唱団を結成している。

(2)　高齢者・障害者支援等

独居高齢者の閉じこもり対策や高齢者介護の問題など高齢者支援は地域の大きな課題となっており、県民交流広場においても「高齢者の生きがいづくり」（45地区、17％）や「世代間交流」（109地区、41％）を活動テーマに掲げている地区が多い。

また、県民交流広場事業を実施している団体の中には、以前から、独居高齢者に対する給食サービス事業（市町事業）等に携わっている例も多く、広場事業の実施を契機に「ふれあい給食会」等の実施回数をふやした地区もある。

さらに、拠点施設の整備にあたっては、高齢者や障害者も利用しやすいように、玄関やトイレの段差を解消したり手すりを設置するなど、バリアフリーの観点から改修を施す事例も多数見られる。

●相生市青葉台（あおばだい）地区⑲

「笑顔で小物づくり」

◆造船業の活況時には、社宅が建ち並び、人口も多い地域であったが、いまでは高齢化率が３０％にもなっている。

◆高齢者の引きこもり予防になればと、小物づくり教室を開催。各地域からお年寄が集まり、ボランティアグループの指導のもと、携帯ストラップ等を作製している。

◆県民交流広場をきっかけに小学校区にエリアを広げて実施。いつもお年寄達の笑顔が絶えない。

●丹波市市島町美和（みわ）地区⑱

「ふれあい喫茶」

◆高齢者等の居場所づくりや新興住宅地の人々との交流等のために、「地域ふれあい喫茶（とんぼり）」を開催している。

◆毎週火曜日には、うどんもメニューに加わり、これを楽しみにして、声をかけあって集まってくる高齢者も少なくない。

◆喫茶のボランティアには、新興住宅地の人も参加しており、新旧住民間のふれあいが深まることにやりがいを感じている。

このほか、養父市関宮（せきのみや）地区では、地元の主婦が一人暮らし高齢者のために食事会を開催しており、また、播磨町播磨北（はりまきた）地区では、幼児から高齢者、障害を持つ人など、誰もが集い交流できる場づくりを進めている。

(3)　消費生活

近年、商品や各種の消費サービスが多様化し、次々と新たな商品、サービスが現れており、それに伴って悪質商法等による若者や高齢者の被害も続出している。

県民交流広場においても「各種講座」を企画する際に、悪質商法対策などを科目に入れている例が多くなっている。

（悪質商法対策や地域福祉等をテーマにした「各種研究会・講座」を開催しているところは、45地区（17％）ある。）

(4)　環境

環境問題は、地球温暖化、オゾン層破壊等の地球規模の問題から、ごみ処理、廃棄物・リサイクル問題といった身近な問題まで、深刻の度合いが深まっており、国や自治体のみならず、地域

コミュニティレベルからの早急な対応が求められている。

ごみ問題や地域周辺の環境整備は地域共通の課題であることから、県民交流広場においては、地域一斉清掃や環境学習など、多くの地域（72 地区、27%）において環境改善に向けた取組を展開している。

●たつの市揖西東地区⑱

「給食の残飯で肥料作り」

◆「子供たちが環境について考える契機になれば」との思いから、住民団体とＮＰＯが協力して、学校給食や家庭の残飯を再利用したたい肥作りに取り組んでいる。

●洲本市鮎原地区⑱

「地域の自然を守る、地域河川環境事業」

◆美しい自然を守り、継承するため、都志川に子供から高齢者まで総勢 100 名が集まり、ふれあいの場として「地域河川環境事業」を実施。水質調査を通して豊かな自然に触れながら、河川環境の保全についてともに考えた。

このほか、洲本市都志地区では、エコロジーや循環型社会に関する学習を広場活動に取り入れており、県民局等との連携による「菜の花プロジェクト」等にも参加している。

また、加古川市西神吉地区でも環境問題の普及啓発や廃品回収、リサイクルバザー等の活動を実施するとともに、拠点整備の一環として施設に太陽光発電パネルを設置している。

(5)　防災、地域安全

近時、小学生や幼い子供が犯罪に巻き込まれる事件が全国的に多発し、また、台風や地震などによる大規模な自然災害が多数発生していることもあり、地域では防犯意識や防災意識、危機意識が非常に強くなっている。

地域ぐるみの防災・防犯活動、児童の登下校時見守り、防災・防犯講習会の開催など、105 地区（39%）において「地域防災・防犯」の取組が実施されている。

掲載の地域以外にも、宝塚市小浜地区での安全マップづくり、西脇市桜が丘地区や洲本市中河原地区での、子供の登下校時の見守りパトロールの実施など、防犯活動は活発に取り組まれている。

神戸市北区大原・桂木地区では、地域の安全確保が課題との認識から、地域の情報発信能力を高めるため、地域ＩＴ化を推進している。

●宝塚市宝塚第一地区⑱

「防犯活動～わんわんパトロール」

◆空き巣の発生をきっかけに「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と有志が立ち上がり、防犯活動に取り組んでいる。

◆最近では、ひったくり事犯の急増を受けて、「わんわんパトロール」も実施。このような活動を通じて地域の防犯意識が向上し、新しく移り住んだ人々も積極的にコミュニティ活動に参加するようになった。

また、丹波市吉見地区では、拠点施設を地域の防災センターとして位置づけ、防災組織の設立をはじめ、防災講習会の開催や訓練の実施など、特に地域防災に注力して広場活動を行っており、赤穂市坂越地区でも、施設を海岸の防災拠点として活用している。

●加古川市別府町地区⑱　　「地域課題を見据えた主体的な活動」

◆小学２年生女子刺殺事件の発生を受け、地域内に動揺や不安が広がったが、子供たちを元気づけようと、「元気なべふっ子フェスティバル」を開催したり、防犯活動を充実させるため、「防犯のつどい」を催すなど、安全・安心なまちづくりを進めている。

(6)　地域国際化

外国人県民の多くは、文化や習慣、言語の異なる環境の中で、日常生活でも様々な不安や悩みを抱えている。そのような不安や悩みを少しでも取り除くことができればと、県民交流広場でも、地域の中から外国人との交流や国際理解を進めていこうとする交流の動きが現れ始めている。

●神戸市東灘区六甲アイランド西地区⑲

「国際文化を学ぶ料理教室の開催」

◆歴史の新しいまちであり、住民のわがまち意識の醸成が地域の課題の一つ。

◆国際色豊かな六甲アイランドの特色を生かし、島内の外国料理店員や外国人居住者を講師に招き、料理を通じて他国文化を学ぶとともに、講習会等をきっかけにして、住民間の交流やコミュニケーションを促進し、地域への愛着心を育んでいこうと努めている。

●南あわじ市伊加利地区⑰

「留学生を通じた国際交流」

◆地域活性化の一環として、以前から留学生との交流事業を企画、実施している。

◆広場事業として、留学生と地域住民、子供たちとの「ことばで遊ぼう」語学研修を年３回、２日間にかけて開催。

◆教材は留学生たちが考えた日常会話及び数字の数え方など。

◆国際化の進む次代を担う子供たちにとって、異文化を体験する貴重な機会となっている。

このほか、明石市明石地区では、帰国子女を対象とした日本語教室の開催等を実施している。

(7)　その他の地域課題

小規模集落等における地場産品の開発・販売を通じた地域活性化や都市住民との交流をはじめ、地場産業の振興による地域活性化対策、地域の遺跡や自然公園等の資源を生かした多世代交流などが実施されている。

●新温泉町久斗山地区⑯

◆廃校となった小学校を活用して、地元農産物を使った特産品開発を行う調理室を整備。トチの実を使ったトチもちや、葉ワサビ、サンショウを使った佃煮や漬物をつくっており、都市住民にも好評を得ている。

◆調理場で集まって話や作業をすることが、子供がいなくなり活力が低下している小学校及びその周辺地区の活性化につながっており、また、商品の販売が住民の生きがいづくりと持続的な活動展開につながっている。

●姫路市花田（はなだ）地区⑱

「地場産業の振興による地域活性化」

◆県内を代表する皮革産地。海外の安い製品におされ生産量が年々減少しているが、地場産業のＰＲと振興こそが地域の活性化に貢献するとの認識から、広場事業を活用し、ＰＲ拠点施設を新築。靴やかばん、ベルト、小物などを展示・販売。

◆また、毎月 2 回、地域住民と小中学生を対象に「レザークラフト教室」を開催し、住民間交流や住民の引きこもり解消のきっかけづくりに取り組んでいる。

●豊岡市中筋（なかすじ）地域⑱

「地域資源を生かした多世代交流事業」

◆少子高齢化の進む地域の活性化を図るため、地域内の多くの遺跡、史跡や大師山自然公園内の里山など、地域資源を生かした交流の郷づくりを進めている。

◆県民交流広場事業で、里山への植樹、昆虫探検隊、チビッコ体験教室等の様々な事業を行うことによって、異世代間の住民の交流を積極的に図っている。

このほか、神戸市北区有馬（ありま）地区での、地域の歴史資料の保存活動、尼崎市尾浜（おはま）地区での地域通貨の利用やイベント開催によるや商店街の活性化活動、宝塚市逆瀬台（さかせだい）地区での、団塊の世代の“地域デビュー”促進のための生涯学習講座等の充実、相生市相生（あいおい）地区での健康相談開催による地元高齢者と看護学校学生との交流事業、加東市鴨川（かもがわ）地区でのＪＡ支所を改修・活用したギャラリー運営、淡路市塩田（しおた）地区における地域の伝統行事の保存活動を通じたコミュニティの活性化など、各地で様々な活動が繰り広げられている。

２　評価・検証

・少子高齢化や核家族化が進行する中で、各地域では、「子育て支援活動」はじめとする「世代間・新旧住民間の交流」や、「地域防災・防犯活動」、「環境改善への取組」、「小規模集落の活性化」など、地域課題に応じた、また、地域の資源をうまく生かした多種多様な取組が行われている。

・広場事業を契機に新たな活動を立ち上げた例も多く、地域の実情に沿った活動を通じて地域コミュニティの活性化に役立っている。

・地域の課題解決のみが広場事業の目的でなく、地域の課題に向かって住民が協力して考え、ともに行動するところに意義がある。

・全体として取組内容は多様性に富むが、個々の地域ごとに見れば、特定の活動のみを行っている場合もあるので、幅広い活動の展開に向けた努力も望まれる。

3-2　地域コミュニティの運営上の課題への取組

1　地域の取組状況

(1)　組織運営基盤の脆弱化

都市化の進展や人々のライフスタイルの変化等に伴い、地域での人と人との連帯感が希薄化し、住民意識や地域コミュニティに対する関心が低下している。また、地域の抱える課題を認識し、その対応に取り組もうとしても人材が不足しているなど、地域のコミュニティ活動に関わる組織運営基盤の脆弱化という課題が広がっている。

(2)　県民交流広場での取組例

そのような中で、県民交流広場の実施地域では、みんなが地域に関心を寄せるような工夫を試みながら、地域課題を掘り起こし、解決に向けた活動を行う過程を通じて、人と人とのふれあい交流を深めている事例が見られる。

(3)　コミュニティ活動への参加促進

地域への関心を持ってもらうために、みんなが集まりやすいイベント等を開催し、コミュニティ活動への参加のきっかけ作りとしている地区や、子供が参加する行事を通じて親世代の活動参加を誘導する試みも見られる。

(4)　人材の育成・確保

広場の実施地域では、活動に協力してもらえる人材を、あらかじめ専門分野ごとに登録する「人材バンク」体制を導入しているところやイベントのボランティアを公募したり、イベントの準備やパソコン教室の講師を住民が担当したりすることで、ノウハウを継承するなど、幅広い人材の育成・確保に取り組んでいる。

(5)　多様な団体等との連携

地域ぐるみでの活動となるように、県民交流広場の実施地区では、地域推進委員会自体が地域内のできるだけ多くの団体の加入を得て組織されており、特に自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会、ＰＴＡ等の地縁的な組織、団体との連携は、概ね良好に保たれている。

一方で、ＮＰＯ等との活動テーマを通じた連携は、あまり進んでいない傾向があり、大きな課題となっている。

●川西市北陵（ほくりょう）地区⑱

「食を通じた人と人とのふれあい」

◆近年、コミュニティ活動や福祉活動への参加者が減少傾向にあるため、多くの人が集える行事等を通じた住民交流の促進を計画。

◆広場事業で、男の料理教室「そば打ち体験道場」を開催。そば打ち名人を招き、本格的なそば打ち体験を実施した。

◆みんなが興味を持てる体験を通じて、コミュニティ活動への参加者がふえ、人々の「ふれあい」も深まっている。

●伊丹市桜台（さくらだい）地区⑱

「農業体験を通じたコミュニティへの参加促進」

◆地域活動の担い手は高齢者であり、若い世代の参加が少ないことが地域の課題。

◆広場事業として、地域に残る農地を利用して、小学生を対象とした農業体験を行い、高齢者と子供の交流を図っている。野菜作りを通して、人とのつながりの大切さを感じた若い世代（子供の親世代）が、コミュニティ活動に積極的に参加するようになった。

2　評価・検証

住民の参加促進やボランティアとの連携など広場活動の内容充実を図っていく過程で、住民のコミュニティへの関心を喚起し、人材育成や団体との連携強化などコミュニティの運営上の課題に向けた取組が進められており、地域コミュニティの活性化につながっている。

3-3　地域活動を通じた生活の豊かさや生きがいの創造への取組

1　地域の取組状況

広場での活動を通じて、住民が地域コミュニティに積極的に関わっていくことで、身近な地域が豊かな生活環境や文化を備えた魅力ある地域になっていく。

また、地域の魅力の向上とともに、住民一人ひとりも地域を舞台にした活動に取り組み、個性や創造性を発揮しながら役割を担っていくことで、生活の豊かさの幅を広げ、生きがいを創造していくことができる。

●加西市富田（とみた）地区⑱

「地域のみんなで味噌づくり」

◆「地域の特色ある農産物の開発」を広場事業での活動の核とし、手始めに、「味噌造り」に取り組んでいる。

◆転作田を活用し、小学生による体験学習も取り入れ、青大豆の種まきから刈り取り・収穫まで、地域のみんなで作業した。また、電気・鉄工・大工など地域住民の技術を結集して麹づくり器などを製作。役割の分担が、みんなのやりがいにつながっている。

H19 年度「塩田下司（しおたくだし）大名行列」が３年ぶりに復活し、20～50 代の幅広い年齢層の住民が参加した。

週１回の練習や大名行列の本番を通じて、普段は話などすることがない住民に共通の話題が生まれ、自然と地域のまとまりができて交流の深まりが実感できた。（⑱：淡路市塩田地区）

動員をかけるような強制的な参加を求めると長続きしない。自主的に集まってくる人を大切にしている。活動している人たちが生き生きと活動するのが大切。（⑲：淡路）

「自分の仕事もあって、ここで手伝いをするのは決して楽ではないけれど、ここにくれば仲間がいていろんな話をすることができる。ふれあいや交流があるから、それが楽しみでボランティアをやっています」（⑱丹波市美和地区ふれあい喫茶「とんぼり」のボランティアスタッフ）

「郷土史家など地域に深い見識を持つ人たちを委員にすることで「ふるさと」意識を高める機会が増え、地域の一員としての自覚を子どもから高齢者まで共有することができている」

（⑲：丹波）

●養父市関宮（せきのみや）地区⑰

「手作り料理で高齢者と交流」

◆健康である限り住み慣れたまちで人々とふれあいながら暮らしたい、とのお年寄りの願いに沿って、誰でも気軽に集まって会話を楽しんだり、食事をともにできる場を整備。

◆独居高齢者に住民有志が手作り料理をふるまって交流する食事会や健康教室等の開催により、高齢者が元気になるとともに、住民スタッフもやりがいと楽しさを感じながら活動を盛り上げている。

2　評価・検証

県民交流広場においては、「地域での日常生活をめぐる課題への取組」「地域コミュニティの運営上の課題への取組」だけでなく、それらの特徴的な活動の展開を通じて、地域の一員としての役割を担い、仲間と活動をともにすることで、同時に一人ひとりの「生活の豊かさや生きがいの創造への取組」も行っているところである。

これらの特徴ある活動事例や先進事例がさらに各地に広がっていくよう、さらには実施地域自身の励みにつなげるためにも、様々な情報媒体を活用して、活動事例の紹介や工夫・アイデア等の情報交換を進めることが重要である。

第３章　評価・検証のまとめ

１　県民交流広場事業の成果

１　三つの視点から見た県民交流広場事業の成果

(1) 効果的な事業展開の視点

○ 地域の自己点検結果では、全実施地区（266地区）の81％（206地区）が、広場事業が「コミュニティの活性化につながっている」と評価しており、また、点検項目の平均評点が3.9点（5.0満点）であることや、県民局の評価、広域推進委員会委員長の意見等を総合的に判断すれば、地域では概ね適切かつ効果的に事業展開がなされていると評価することができる。

○ また、広場の参加者が固定されず誰でも気軽に参加できる状況が広がっているなど、概して、地域ぐるみで開かれた広場運営がなされている。

(2) 地域の自主的・自立的な取組の視点

○ 県民交流広場事業自体が、「参画と協働」の視点に基づいた事業体系になっているが、実際に活動を行う局面では様々な課題に直面し、企図したとおりに広場事業が進展しない状況が各地で見られる。一方では、当面する課題を地域のみんなで共有し、対応策を検討して難局を乗り越え、活動の展開につなげている事例も多くある。

○ このように事業プロセスの一つひとつが「参画と協働」の実践過程であり、その中で思いどおり進まなくても、自主的・自立的に次の対応を考えて努力していく過程もまた「参画と協働」の取組であると評価することができる。

(3) 地域コミュニティ再生の視点

○ 各地域の県民交流広場においては、例えば、祭りやふれあい交流会などの「イベントを通じた世代間・新旧住民間の交流」（109地区）や、児童の見守り活動等の「地域防災・防犯活動」（105地区）、地域一斉清掃などの「環境改善への取組」（72地区）、「子育て支援活動」（62地区）など、地域課題に応じた多種多様な取組が行われている。

○ その中では、地域活動への住民の参加促進や人材の育成など地域コミュニティの運営上の課題に対応した活動例も見られ、それらの活動を通じて生活の豊かさや生きがいの創造にもつながっている。

○ 本来、地域コミュニティでは、その抱える課題に対応していくため、取組方策を自ら企画し、財源を確保して拠点整備や活動を推し進め、年月をかけて取組の改善を図りながら活動展開していくものである。県民交流広場事業は、そのような地域活動のあり方や地域のニーズを踏まえ、地域活性化に寄与できる施策として、

- 地域主体による包括的な取組を可能とした地域提案型の事業
- 拠点整備の助成と、拠点での活動に対する助成の組み合わせ
- 単年度でなく複数年にわたる助成

等の特徴を有しており、実際に多くの地域で県民交流広場の取組がコミュニティの活性化に役立っている。こうした手法は、他のコミュニティ支援施策にも活用することができる。

○ 広場事業は何らかの課題解決を図ることのみを目的とするものではなく、むしろ課題解決に向けて、地域のみんなで考え行動するという動きを起こすこと、あるいは活動を通じて課題を浮き彫りにしたり新たな課題を発見することをめざす事業であり、各地で多様な活動が展開されていること自体、大きな成果であると言える。

2　県民交流広場事業の成果の共有

(1) 広場事業での先進事例や工夫・ノウハウ、さらには取組上の課題を含めて各地域で情報を共有することは、広場実施地域での活動充実につながるとともに、新たに取り組む地域での活動プランの作成や取組方法などの参考資料となる。

(2) 広場事業で展開されている「参画と協働」の手法やノウハウについては、他の県施策や事業に生かしていく。

(3) 広場事業の評価・検証等を通じて、県民交流広場で取り組まれている様々な自主的活動や先進事例を紹介し、あわせて課題や問題点も示すことによって、それらの情報を広場に関わる地域はもとより本県の各地域・市町で共有し、地域と住民一人ひとりの個性と多様性を生かして地域を元気にする地域コミュニティの創造的再生に役立てる。

2　県民交流広場事業の課題

1　県民交流広場事業の課題

(1) 事業趣旨の浸透等運営上の課題

助成限度額の全額補助を前提にした安易な申請とならないよう、活動等に必要な範囲内での助成という事業趣旨の一層の浸透に努めるとともに、整備費補助の運用等については、整備の必要性や他施策の活用等も十分勘案して、厳正に行っていく必要がある。

(2) 地域での事業展開上の課題

広場実施地域においては、それぞれ課題や悩みを抱えながら事業に取り組んでおり、その中でも、以下の課題は多くの地域に共通する課題となっている。

○地域内の意思疎通、情報の共有
○助成期間終了後の自立に向けた取組
○多様な団体、グループとの連携
○人材の育成・確保

2　事業の成果を広く県内各地に生かすための課題

地域コミュニティの活性化に向けた活動を進めていくためには、地域の課題や有する資源を的確に把握し、広く住民の意見を聞きながら、多様な主体との連携を図りながら実施していくことが肝要であり、このことは広場の実施地域に限らず、いずれの地域にもあてはまることである。その中では上記(1)と共通する課題があると考えられ、また、広く県内各地においてコミュニティの活性化を図っていくためには、広場と広場、広場と地域とのヨコのつながりを広げていきながら、県民交流広場での成果やノウハウを有効に引き継いでいくことが大切である。

○地域ＳＮＳの活用等による情報交流の促進
○資金確保の工夫
○広場間のネットワークづくり（ヨコのつながり）
○コミュニティ応援隊（ＣＡＴ）による支援の活用（地域課題や資源の把握、合意形成支援）
○参画と協働の促進
○県と市町との連携による各種支援
○担い手育成のためのノウハウの共有
○生きがい・やりがいの醸成

3　評価・検証を踏まえた今後の展開方針

1　県民交流広場事業の展開

(1) 県民交流広場事業の推進にあたっては、事業趣旨の一層の浸透を図りながら、施設整備のあり方等について厳正な運用を図っていくとともに、新行財政構造改革の趣旨も踏まえ、これまで以上に地域の自主性とプランの熟度を重視した地域選定を進めていく必要がある。ただし、本事業の基本理念に基づき、採択に値する地域は、できるだけ採択していくことが望まれる。

(2) 広場事業は、地域ぐるみの「参画と協働」の取組のもとに、地域課題に応じた活動を展開する事業であり、地域のみんなで取り組む体制を築くことが最も重要である。そのもとで、「地域内の意思疎通、情報の共有」を促進するため地域ＳＮＳの活用や広場間のネットワークづくり（ヨコのつながり）、「助成期間終了後の自立」に向けた先進事例のノウハウの共有、さらには、ＣＡＴによる支援等の活用（地域課題や資源の把握、合意形成支援）、参画と協働の促進を図っていくなど、地域の実情に即した対応を進めていくことが求められる。

(3) 広場事業の中での取組の一つひとつが脆弱化したコミュニティの活性化につながるものであり、また、それらの活動を通じて、生きがい・やりがいの醸成を図っていく視点を持つことが活動の活性化や継続性にとって重要である。

2　兵庫県の地域コミュニティの再生に向けた展開

◎　地域への愛着と自治の仕組みを生かす、拠点・情報・ネットワーク

(1) 県民交流広場と各種施策の連携

○ 県民交流広場事業は、地域の活動拠点として、あらゆる取組のプラットフォームとなるものであり、広場の中で、多様な主体による地域活動と、県・市町が連携した行政支援とが一体となった取組を進めることで地域コミュニティの活性化が可能となる。

○ 子育てや高齢者対策、障害者支援、防災・防犯対策、環境問題など地域が抱える様々な課題や需要に対して、それぞれに各種の行政施策が対応しており、広場活動の中で地域の人々がこれらの施策を有効に活用できるよう、広場事業と各種施策との連携を密にするとともに、活動に役立つ情報を収集整理して、地域の必要に応じて提供していく必要がある。

(2) 県民交流広場事業の成果の継承と地域へのフォローアップ

○ 県民交流広場事業を実施している地域では、事業期間終了後の自立を見据えて着実に資金確保などの準備を進めているところがある一方で、自立のためにはさらなる努力を要する地域やまだ自立に向けた方策や目途の定まっていない地域もある。そのような地域を含めて、広場事業を進める中で培ってきた人と人とのつながりや拠点のにぎわいが、事業期間の終了とともに消えてしまうことのないように、事業の成果やノウハウを、地域はもとより行政関係機関の間で引き継いでいくことが大切である。

○ また、自立が困難な地域（及び事業期間内に広場事業を実施しなかった地域）等に対しては、別途適切なフォローアップが必要であり、コミュニティ応援隊等による支援や地域の「かかりつけ医」的なアドバイザーの設置等、きめ細かな支援方策について検討を進め、県内全体の地域コミュニティの活性化に向けた対応を図っていく必要がある。

参　考　実施地区の自己点検等の結果概要

1　県民交流広場事業が「コミュニティの活性化につながっている」と評価

◆　実施地区の 81%（206 地区）、すべての実施市町（38 市町）において、広場事業が「コミュニティの活性化につながっている」と評価しており、県民交流広場を呼び水として、コミュニティが活性化している結果となっている。

実施地区

つながっている（206 地区、81%）

- ➢ 活動の参加者の拡大(127 地区、62%)
- ➢ 地域づくりへの住民の関心の高まり（118 地区、57%）
- ➢ 地域団体間の連携・交流促進（104 地区、50%）
- ➢ 世代間交流の促進（104 地区、50%）
- ➢ 広場の運営・活動への企画やアイデアの住民からの提案（102 地区、50%）　等

つながっていない（8 地区、3%）

- ➢ 依然として住民の関心が低い(5 地区、63%)
- ➢ 活動のリーダーやスタッフが不足している（5 地区、63%）
- ➢ 活動に関する情報提供が不足している（4 地区、50%）

市　町

つながっている（38 市町、93%）

- ➢ コミュニティ活動の促進、拡充(20 市町、53%)
- ➢ 住民間、地域間交流の拡大(11 市町、29%)
- ➢ 世代間交流の促進（7 市町、18%）
- ➢ 地域団体間の連携・交流促進(7 市町、18%)
- ➢ 地域課題の住民間共有(3 市町、８%)　等

つながっていない（0 市町、0%）

- ➢ コミュニティの活性化につながっていないと回答した市町はなかった。

（註）実施地区に未回答が一部あった。
また、➢の具体の成果や課題は複数回答であり、%は「つながっている」「つながっていない」との各回答を 100%とした場合の割合

2　項目ごとの点検結果

◆　県民交流広場の展開プロセスに沿った、全 28 の点検項目について、実施地区自身にチェックしてもらった結果、平均評点が 3.9（5.0 満点）となり、実施地区においては、概ね適切に事業活用がなされている。

◆　評点結果を見ると、「評点が高く適切に対応できている項目」と「評点が低く実施地区において弱みとなっている項目」が明らかになっており、概して、地域ぐるみで開かれた広場運営がなされている一方、地域内での意思疎通・情報共有の仕組み、助成期間（概ね５年間）終了後の活動継続に向けた資金確保の取組、人材の確保等が課題になっている。

◆　これらの傾向は、昨年度の自己点検でも同様にうかがわれたところであり、地域の課題が固定化している状況が見られる。

平均評点が高い項目

- 施設は誰もが気軽に利用できる状況になっている**(平均 4.4 点)**
- 予算、決算などが委員会内部で適切にチェックされている**(同 4.4 点)**
- 広場の活動の参加者が固定されず、誰でも気軽に参加できる**(同 4.3 点)**
- 子どもから高齢者まで、誰もが使いやすいよう配慮した施設になっている**(同 4.3 点)**

平均評点が低い項目

- インターネットのホームページや掲示板などにより、情報発信したり、地域内の意思疎通・情報共有のための工夫をしている**(平均 2.6 点)**
- 助成期間終了後も活動継続できるよう、資金確保の取り組みを行っている**(同 3.5 点)**
- ボランティアグループや地域外の団体・個人と連携して活動を展開している**(同 3.3 点)**
- リーダー、スタッフなどの人材を育てる仕組みがある**(同 3.5 点)**

3　県民交流広場事業に対する市町の意向

◆　市町の 80%（33 市町）が、自ら進めるコミュニティ施策と県民交流広場事業とを連携させていく意向を持っており、地域組織の育成や地域間・世代間の交流促進、リーダー養成、及び拠点整備を通じた地域活性化等にとって有効な施策であると多くの市町で考えている。

◆　また、広場の実施見込みについて、46%（19 市町）の市町で、採択期間（H18～22 年度）のうちに「管内全校区での実施」をめざすとともに、「校区の５割以上での実施」が市町の９割を超える（93%）など、市町の広場事業への取り組み意欲は高くなっている。

◆　この市町の意向を基に、広場の実施見込みを試算すると、695 校区（全 829 校区の 84%）での実施が見込まれる。

4　その他県民局や制度全般に対する意見

◆　その他、実施地区から県に対して、「活動に役立つ情報の提供」「県民局による指導・アドバイス」「フォーラムの開催等による情報収集・意見交換などの機会の提供」などの支援を求める声や「県と市との連携」を求める意見があった。

◆　制度について、実施地区からは、「地域活性化へのきっかけとなった」「取組が充実してきた」「地域自身により計画できる点がよい」「活動の拠点ができてよかった」など評価する意見が多く、また、市町からも、制度に対する否定的な意見は特になく、制度については概ね評価されている状況である。

◆　ただし、制度運用に対する意見・提案として、実施地区から、「助成金そのものの増額」「助成期間の延長」などの更なる助成や、「助成手続きの簡素化」「事業のより柔軟な実施」を求める声も多く聞かれた。

5　地域の自己点検に対する県民局の評価

◆　実施地域自身による自己点検については、助成を受けている立場等から、事業や地域活動の状況についての評価が甘くなる傾向があることを考慮し、自己点検の的確性を把握するため、県民局による評価を実施した。

◆　各地域の自己点検に対する県民局の評価として、

①「概ね適正である」

②「点検結果に対して意見あり」

のいずれかの評価を求めたところ、全回答数（263地区）の点検結果に対して、「意見あり」は41件となった。主な意見は以下のようなもので、自己点検を「もっと厳しくすべき」というものと「厳しすぎる」というものがあり、総合的に見れば、地域の自己点検については概ね適正であると、県民局は評価している。

《県民局の主な意見》

- 「資金確保の取り組みについて、まだ検討中であり、自己評価「５点」は高すぎる」
- 「19年度に拠点整備をしたところであるため、自己評価は高くないが、映像システムを利用した研修会や映写会を通じた高齢者の憩いの場づくりなど、今後の活動の展開が期待できる」
- 「最大評価としていないのは、今後の活動に向けて、さらに充実したものとするための意識の表れと思われる」
- 「地域住民への事業の浸透に課題がある」
- 「施設改修について計画の遅れが見られる」
- 「新たなリーダーが育ちつつあるとの自己評価であるが、詳細は不明であることもあり、県民局としても状況を見守っていきたい」

6　県民局による課題事例の抽出

◆　また、県民局においては、地域での活動が進まないなど、課題のある具体事例を抽出し、その考えられる理由等について考察を加えた。

◆　主な事例は以下のとおりであり、活動の計画時点やスタート時の構想とその後の実際の取組で齟齬が生じたり、計画の変更を余儀なくされている状況が生じており、点検と改善を絶えず行っていく必要性がここからもうかがわれる。

〔課題がある事例〕

○　計画年度内に工事を完成できなかった。（神戸地域）

〔取組が進まない理由〕

■　増築し、交流スペースを拡大する計画であったが、建築基準法に適合せず認められなかった。計画時の調査が十分に行われていなかった。

○ 商店街の空き店舗を活用したユニークな事例であるが、開館日が限定され、活動の盛り上がりに欠ける。（阪神南地域）

■ 施設の管理スタッフなど人材不足と、地域へのＰＲ不足。

○ 拠点施設の改修が遅れているため、中学校の空き教室を仮の事務局として借りている。（阪神北地域）

■ 当初予定していた施設の老朽化が著しいため、施設規模や利用状況を含めて再検討している状況。

○ 施設整備費に計上している間仕切りの設置を中止した。（東播磨地域）

■ 間仕切りすることで窓がふさがれてしまうことから反対意見が出て、中止することになった。また、そのために備品を購入・収納することができず、活動の展開が十分に図られていない。

○ 広場事業の実施が進まない町がある。（中播磨地域）

■ コミュニティが集落単位であり、小学校区単位での合意形成が難しく、実施の気運も生じにくい。

○ 都市と農山村地域との交流が進んでいない。（但馬地域）

■ 交流拠点を整備して機能向上は図られたが、他団体との連携による来訪者を呼び込む仕掛けなどについてもう少し検討が必要である。

○ 活動内容と住民の望む活動との間にずれが生じてきている。（淡路地域）

■ 国際交流を指向する団体によって活動がスタートしたが、参加している留学生だけでなく、地域に目に見える形で成果を還元したいという地域の思いが高まってきている。

7　広域推進委員会委員長の意見

◆　地域の自己点検と県民局の評価、及び課題事例の状況等について、広域推進委員会委員長からコメントをいただいた。

◆　主な意見としては、以下のようなものであり、実際に広場事業の地域選定にたずさわり、地域コミュニティの状況や課題等を十分把握されている立場から、多くの示唆に富む、大変貴重なご意見をいただいた。

主な意見

【基金管理について】

● 会計の透明性は満点に近く、概ね運営状況は良好だが、推進母体が崩れると運営が苦しくなるので、評価の低い地区については何らかの助言が必要である。

【資金確保について】

● 行政には、資金確保のための様々な情報を地域に与えていくなどの支援が求められる。

● 立ち上げ直後は地域浸透の意味合いもあるので無料も仕方ないが、助成終了後を見据えて、参加料は徴収すべきだ。パソコン教室などは普通に教室に通うと高額な受講料がいる。そこまではいかなくてもニーズのある講座などからは受講料を取るべきだ。

【場づくりについて】

● 校区の中の１自治会の公民館が拠点となっているところがあるが、そのようなところは、時間がたてば地域の拠点ということが忘れ去られるおそれがある。校区の拠点として継続してやっていけるよう意欲をもって活動を展開してほしい。

【活動プログラムについて】

● ５年間で活動のノウハウを蓄積し、それをきっちりと伝えることが大切。

● 活動を継続させるための工夫として、県や市町の広報紙などで各地域の活動を紹介し、成功例やアイデアなどを情報交換することが必要である。掲載されたところは励みになるし、他の地域は活動の参考になる。ホームページで紹介しているといっても、インターネットは使わない人がまだ多い。

● 市町合併後、大きな範囲で集約され、地域の個性が埋没しつつある中で、それぞれの持つ地域の良さを生かした活動が行われている。

【コミュニティ内外との協働について】

● 理想は、うまくいっているところからいっていないところへの支援があればいい。例えば、相談会や発表会をするなどヨコの交流が必要である。これは、同時に各地区の公開性も担保することになる。

【人材育成について】

● どの地域も人材の育成に苦慮しており、この点についても支援が必要である。

● 人材の育成については、ほとんどの地域で今後の一番の課題と認識しているようではあるが、反面、「人材を育てるとはどういうことか？」ということがきちんと認識されているのかどうか心許ない面があるように思う。いずれにしても、広場事業の運営を特定の人以外にも参画してもらえるような取組が求められる。

【情報発信について】

● インターネットを使った情報発信が低い。

8　現地調査の実施

◎県民交流広場事業に係る評価・検証ワーキングチームによる現地調査

〔現地調査の進め方〕

(1) 現地調査は、地域性の異なる４県民局域から任意の県民交流広場実施地区を対象に実施。
　① 都市的地域（神戸・阪神南県民局圏域）
　② 中間的地域（北播磨県民局圏域）
　③ 農山村的地域（丹波県民局圏域）

(2) 調査対象地区は、採択年度（事業実施年数による違い）、活用拠点（新築・改修や地域所有・市町有による違い）などを考慮し抽出。

(3) 抽出した広場実施地区を対象に、整備状況や活動状況を確認し、役員やスタッフ、利用者等を交え、これまでの取り組み状況や今後への課題等について意見交換を実施。

北播磨県民局管内（中間的地域）
〔平成 20 年 6 月 19 日実施〕
①加東市米田地区
②小野市小野地区
③小野市来住地区

（１）　加東市米田（よねだ）地区（19 年度採択）

〔地域の概要〕
①小学校区：米田小学校区
②地域規模：1,108 世帯、2,518 人
③実施主体：米田ふれあい協議会
④拠点施設：上久米公民館「ふれあい広場」（公民館の改修と別棟の新築）

〔取り組みの概要〕
○「ふれあい喫茶」のほか、文化教室や体育祭などの世代間交流と地域づくり活動を実施
○ 拠点施設整備にあたり、水道、電気、内装工事などに分割して発注したり、備品をリサイクル品で整備するなどの工夫している

〔自己点検・アンケート〕
○自己点検平均点：4.12 点
○広場事業に取り組んだ成果：「取り組み始めたばかりで成果はまだ出ていない」

(参加者)
米田地区：５名(各区長、ふれあい喫茶スタッフ)
福田地区：２名（19 年度採択地区）
上福田地区：１名（20 年度応募予定）
加東市役所：２名

〔主な発言内容〕

米田地区）○ かつては役場も近く、便利であったが、加東市となって役場も遠くなり、地域住民が集える場所が必要となっていた。

○ 広場事業の応募にあたっては、区長会を中心にワークショップを重ね、地域全員で事業応募や活動内容を決めていった。

○ 書類作成など地域は素人であり、毎回勉強しながらの作業で大変だった。応募書類提出から地域採択、事業開始までに県民局等での手続きに時間がかかり、当初予定していたよりかなり遅れたスタートとなった。

○ 拠点の整備工事の見積りなどを進めたかったが、作業を始めて良いと言われたのが遅かった。県には迅速な対応をしてもらいたい。

○ 拠点整備に充てられる補助金は 800 万円ほどで、地域が望む施設とするにはやはり不足する。そのため、本来であれば入札等により業者決定すべきところ、地元業者に金額的な無理をお願いして随意契約の方法をとった。

○ 建物は軽量鉄骨造のプレハブであり、骨格の建設にあたっては地元業者のボランティアにより行った。

○ パソコンやテレビ、冷蔵庫などの備品についても役所等で不要となったものをリサイクルして活用している。特にパソコンは、地域に修理や組み立てのできる方がおり、廃棄されたパソコンを組み立て直して活用するなど工夫している。同じように、カラ

オケやマージャン台などもリサイクルで整備した。

○ ふれあい喫茶は、事業開始が遅れたこともあり、20年3月から開始した。週3回オープンしており、1日 20 人の予想でコーヒー1杯 200 円としているが、利用者は今のところ予想より少ない状況である。

○ 喫茶については、収入を増やすため価格を上げることも考えられるが、地域のみなさんに集まっていただくことを考えるとあまり高くできない。また、喫茶のスタッフは地域の婦人会がボランティアで行ってくれている。

委員）○ふれあい喫茶にはどんな人が来られるのか？

米田地区）⇒ 平日の昼間に開けているので、老人クラブなどの高齢者が多くなる。

委員）○ 週3回のふれあい喫茶の開催日以外はどのような使われ方をしているか？

米田地区）⇒（建物の玄関にも貼っているように）老人クラブや婦人会、スポーツクラブ等が利用している。建物の鍵は全ての区長が持っており、空いていれば自由に利用できる。

○ パソコンの得意な人をはじめ地域には色々な「プロ」がいる。20年度も様々な活動を計画しているが、その計画について米田地区では、一部の役員だけで決めるのではなく、地域全体（総会等）で決めていくこととしている。

事務局）○ ふれあい喫茶は1日 20 人では少ないのではないのか？

米田地区）⇒ 1日 20 人来てくれれば経費的に不足しない予想であるが、実際は 20 人より少なく、水道・電気代等の経費が足りない状況でやっている。

○（県の補助事業に対して）このようにせっかく立ち上がった活動を継続していくためには補助金は必要。少なくとも 10 年間は続けて補助して欲しい。5年経ったら終わりという「トカゲのしっぽ切り」は駄目。

委員）⇒ 広場事業というのは、活動のきっかけづくりを応援する事業とも言える。地域で継続していけるよう他の多くの地域の情報が伝わるようにする必要があるなど、県民生活審議会でも議論しているところ。

○ マージャンやカラオケ、将棋などの備品も整備されているが、その活用方法はどのようにされているのか。

米田地区）⇒ 例えばマージャンの場合、手で摘んで、考えて、計算もすることで高齢者の呆け防止にもつながるため、これらの備品を整えた。

委員）○ 広場事業は「場づくり」でもあり、例えば、ご近所の方同士が「将棋でもしようか」ということでこの広場にやってくる等、いつでも開いていて、誰でも使える場としてもらえれば良いのではないか。

米田地区）⇒ そうなって欲しいと考えている。

事務局）○ これまでご近所同士でおしゃべりをする場合、どなたかの自宅でしていたのが、この広場ができたことで、ここへ来て、さらに別のグループの方とも会話の輪が広がるようになった等の効果は感じられるか？

米田地区）⇒ その効果はあるが、平日の昼間に来られるのは高齢者の方ばかり。地域の拠点といっても距離があり、交通の足がない方は来にくい。家族が送迎してくれる場合は利用してもらえるが、それもないという方にとってはやはり利用しにくい。

○ ある区長からは、「国や県は地域活動の支援などと良いことを言うが、それを受けるのは全て同じ地元。地元にとってはとても手が回らない。良い格好をして何でも受ける訳にはいかない。行政と実際の地元との考えにズレがあると思う。」との意見もある。新しいことを始めようとすると、できるだけ応援がいる。そのためには役員以外の人が動かないと上手くゆかない。事業が増えたからといって地域の人口や人材が増える訳ではない。

委員）⇒ 広場事業のねらいの一つに、これまで参加していなかった人にどう参加してもらうかがある。そのためには日曜日の利用が大切だと思う。例えば子供連れで来られる場所とすることで、その親が参加しやすくなることもあるのではないか。やはり活動を続けるためには役員だけでなく活動内容ごとのリーダーやスタッフが大切となる。その範囲を広げるためにも新しい参加者を集めることは重要。

事務局）○ 福田地区ではどのように考えておられますか。

福田地区）⇒ 地域を引っ張る人はだいたい決まっている。新しい人は、実際にはなかなか出てこない。

○ 土・日曜日の活動でも、実際は活動団体ごとで子供の取り合い。子供達の時間が空いているのは週末だけで、スポーツクラブをはじめ子供を対象とした活動は全て子供達の空いた時間を狙って計画するので、結果的に取り合いとなってしまう。

○ スポーツをしたい子供、そうではない子供それぞれに対して、どのようにアプローチするか。今小学校からの呼びかけも考えているところ。

委員）⇒ スポーツの後にこの広場で反省会や食事会をするなど、各団体の活動を上手く組み合わせて計画し、団体同士で連携していければよいのではないか。

福田地区）⇒ そのような連携が必要だが、各活動団体が自分たちの活動に目一杯で頑張っていて、その中で完結してしまっており、他との連携まで手が回っていない。また、新しい人材についても、区長・役員が既に輪番制となったところもあり、地域を引っ張っていける人ばかりではなくなってきている。

○ スポーツや文化的な活動など全てが広場の中に包含されたものとして対応していかないと、メニューごとバラバラに対応していては人が何人いても足りない。一方で、これまでスタッフとしてやってきている人の役割にまで他から超えてやってしまうと、スタッフのやる気が殺がれるなどの弊害もあり、上手く連携することが大切だと考えている。

委員）⇒ 自治会等の組織による「人と人のつながり」、テーマに沿った「活動つながり」に加えて、広場を中心とした「場所つながり」もあると思う。そのような緩やかな考え方で上手く連携していければよいのではないか。

上福田地区）○ 上福田地区は今年度応募する予定で、これまでにワークショップを重ね活動内容については見えてきたが、拠点施設が決まりにくい。区ごとに集会所等それぞれの拠点を持っており、地域内で一カ所だけを拠点とすることはまとまりにくい。

○ 地域にとっては、新しい場を作って何するの？という感覚。地域の中の一カ所では交通の便が悪いのにどう活用するかが問題。

○ 活動としては、全て一カ所でという訳にはいかないので、各区を巡回する講座等を考えており、各区での行事と地域全体の行事の棲み分けが必要だと考えている。

○ 拠点施設は一カ所だけと言わず、もう少し融通をきかせて欲しい。

－　－　－　－　－　－

（２） 小野市小野（おの）地区（18 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：小野小学校区、小野東小学校区の統合〔２校区統合〕

②地域規模：7,049 世帯、19,900 人

③実施主体：小野地区地域づくり協議会

④拠点施設：市立コミュニティセンターおの（コミュニティセンターの一部をレストランに改修）

〔取り組みの概要〕

○ 食を通じた地域住民の交流拡大のため、地域住民の参画によるコミュニティレストランを運営

○ 地産地消の推進や地域特産品の開発、地域住民による地域活性化イベントの開催など楽しいコミュニティづくりを推進する

〔自己点検・アンケート〕

○**自己点検平均点**：2.78 点

○**広場事業に取り組んだ成果**：「活性化につながっている」

（参加者）　小野地区：２名
　　小野市役所：４名

〔主な発言内容〕

小野地区）○ コミュニティレストランの利用者は 4,000 人/月で、年間 3,000 万円の売り上げとなり、これだけたくさんの人に利用してもらえるとは思っていなかった。

○ ただし、商売としては儲かっておらず、広場事業による補助金を含め何とかまわせるといったレベル

である。また、固定資産税まで必要とは予想できていなかった。

○ コミュニティセンターでのサークル活動の後での利用などが多いが、最近では食事を目的に来られる方が増えてきた。

○ 今後は憩いの場として、もっと若い人達にも来てもらえるよう、夜間も開けたいと考えているが、現段階では昼間の対応で手一杯の状態。

○ レストランで使っているコーヒーカップや飾っている絵画・書などは地域のサークルグループによる手作りのものである。

事務局） ○ レストランで働かれているスタッフの皆さんの「やりがい」等の声はどうか？

小野地区） ⇒ レストランスタッフは現在、調理を担当する男性が２名、調理やフロアを担当する女性が 10 名いる。

○ 当初は、女性スタッフは自宅でも料理をされているので簡単にやってもらえると考えていたが、「お金をもらって提供する」ということで皆さん気をつかって働かれている。

○ また、調理もフロアも全員でローテーションしようと考えていたが、それぞれスタッフの希望もあり、現在は調理とフロアを分けてローテーションを組んでいる。勤務のローテーションも各スタッフに働ける時間を提出してもらい、できるだけ希望に添うよう対応している。

委員） ○「コミュニティレストラン」と「レストラン」の違いはどこにあるか？

小野地区） ⇒ 厨房で働く人も客席フロアから見えるよう全てオープンにしたこと。例えば働いている人と客でもあり知り合いでもある地域の人が来て、気軽に声を掛け合えるよう考えた。客席フロアについても仕切り等を置かず、全体を見渡せるよう配慮している。これも、知り合いが来れば気軽に声を掛け合えることを狙ってのもの。

○ また、単発のイベント的なものだけでなく、毎日ここで地域活動をしたいという思いから、コミュニティレストランという活動につながっていった。

委員） ○ コミュニティルームでの「ひまわりサロン」とあるがこれはどのようなものか？

小野地区） ⇒ お知らせの印刷物などを置き、打ち合わせなど自由に活用してもらっている。

委員） ○ 今後、夜はどうする予定か？特に若い人は、昼間は仕事等で忙しいため、夜に何かすることで集められると思うが。

小野地区） ⇒ 「若い人はいない」とよく言われるが、実際には夜のイベントに多くの人が集まる。また、今の若い人達は昔と違い団体ではなく、個別のグループでの活動が多くなっており、こういった人達をどう集め、地域活動にどう繋げていくかが課題。

○ ちなみに、レストランは予約があれば夜間も対応するし、昨年度のクリスマス・イルミネーションでは少し時間延長してオープンし、それなりに利用はあった。

委員） ○ レストランは 18 時までの営業だが、昼食の後はどう使われているのか？

小野地区） ⇒ 軽食のほかケーキセットもあり、このケーキは地元スタッフの手作りで、一番人気となっている。ラジオ関西で紹介され、神戸からわざわざ食べに来られた人もいた。コミュニティセンターにあるということで、サークルの人達の活用があり、また、サークルの作品を展示するなどコミュニティセンターとレストランの相乗効果でうまくいっている。

― ― ― ― ― ―

（３） 小野市来住（きし）地区（19 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：来住小学校区

②地域規模：1,165 世帯、3,508 人

③実施主体：来住地区地域づくり協議会

④拠点施設：市立コミュニティセンターきすみの（改修）

〔取り組みの概要〕

○ 地域の特産・食材を使った料理講習会や子ども達への食育活動に取り組む

○ 登下校の児童見守りや、地域ぐるみの防犯パトロールの実施、祭りなど世代間・新旧住民間のふれあい事業の実施

〔自己点検・アンケート〕

○自己点検平均点：3.54 点

○広場事業に取り組んだ成果：「取り組み始めたばかりで成果はまだ出ていない」

（参加者）　来住地区：２名

小野市役所：２名

〔主な発言内容〕

来住地区）○ 来住地区は大小６つの町から成っており、その中でも規模的にも大きい下来住に拠点を置くこととした。

○ 活動にあたっては、区長会を中心に行っているが、地域推進委員会に４部会を設置し、それぞれのテーマに沿った活動を展開している。

①企画部会：保育所や小学校、老人会など各町が一体となって、田んぼを借りて催す「きすみの祭」の企画・運営を中心に担当。　「きすみの祭」では、営農組合「ぷらっときすみの」によるコスモス祭とも連携し、隣接する会場で共催している。

②安全部会：各町で取り組んでいる、交通・防犯団体の支援を担当。

③環境部会：単なる環境美化だけでなく、住民のマナー改善・啓発や地域内にある「小野アルプス」等の遊歩道への案内板設置等の整備を担当。

④スポーツ部会：これまではスポーツをしたい人や三世代交流ゲートボール大会等を中心に取り組んできたが、今後はさらに、高齢者をはじめとした健康をテーマに、小野アルプスなども活用してのウォーキング等の活動も取り入れようと考えている。

○ これら部会のほかに、コミュニティセンターを活用する自主活動・趣味サークル等の元気アップ団体があり、これらの団体とも連携して活動を展開している。

委員）○ 広場事業は「場」を作ることで、そこから活動に繋げてもらうことを考えているが、今回の整備と活動についてどのように考えているか。

来住地区）⇒ 昨年度は、広場事業による整備工事で会議をするにも不便だったが、地域の取り組む活動に合わせ調理室などを整備できた。

○ 調理室は、地域の方に地域の食材を使った料理と共に、保存食等についても研究したり、「スローフード」を進める取組を行い、時間をかけて理解してもらうため整備した。

○　階段やトイレなどをバリアフリー化したが、高齢者や障害のある方誰もが使えるように考えたため。もしそのようなグループがあれば活用できる施設であることをＰＲしたい。

○ 最近は食べながらの集まりというものが少なくなっている。また、地域で集まるにもどこそこの部屋を予約して、予定を合わせてといった形となってしまっているが、そうではなく、地域で自由に使えるようにしたい。

委員）○ そのように地域で自由に集まって使えるということが大切だが、６つの町の中でこの施設を改修したことと、ほかの町との関係はどう考えているのか。

来住地区）⇒ この施設は地域の中心にあるので、このコミュニティセンターで料理を初めとした様々な研究や活動をし、それを地域全体に広げていきたいと考えている。

○ 来住地区は６町から成っているが、各町単位でのまとまりはあるものの、小さすぎて上手く取り組めない部分もある。各町単独ではなく、隣の町と連携することで情報が伝わり、地域全体が発展できると考え取り組んでいる。

委員）⇒ これまでのまとまりだけでなく、広場という新しいチャンネルにより町同士がつながることで、地域の広がりさらには活動の広がりが生まれる。この点が広場の効果とも言える。

－　－　－　－　－　－

丹波県民局管内（農山村的地域）
〔平成 20 年 6 月 21 日実施〕
①丹波市美和地区
②丹波市黒井地区
③篠山市日置地区

（1） 丹波市美和（みわ）地区（18 年度採択）

〔地域の概要〕
①小学校区：三輪小学校区
②地域規模：560 世帯、1,680 人
③実施主体：美和地区自治振興会
④拠点施設：美和ふれあいセンター（JA 丹波ひかみ美和支店跡を改修）

〔取り組みの概要〕
○ 世代間、新旧住民間の交流のため、住民の作品などを展示するふれあいギャラリーを兼ねた喫茶「とんぼり」を運営
○ 喫茶は地域のボランティアスタッフにより運営され、利用者の要望から「うどん」をメニューに追加したり、ギャラリーには尼崎など都市部から展示の相談があるなど活動が広がり始めている

〔自己点検・アンケート〕
○自己点検平均点：4.18 点
○広場事業に取り組んだ成果：「大いに活性化につながっている」

（参加者）美和地区：14 名
（役員 6 名、喫茶スタッフ 6 名、利用者 2 名）

〔主な発言内容〕

美和地区）○ この場所は小学校や幼稚園があり、郵便局や農協の支店もあったことから地域生活の中心であった。
○ 農協支店が閉鎖されたことからこの施設を活用して、地域住民が気軽に立ち寄れる交流の場を整備しようと考えた。地域のコミュニティセンターが少し離れた場所にあるが、気軽に立ち寄るというには少し不便だと考えた。
○ ふれあい喫茶のスタッフは全戸配布のチラシで募集したところ、25 名の応募があり、半日交替でシフトを組んでいる。
○ 年間で 3,000 人の利用があり、そのうち８割ぐらいがコーヒーを頼まれる。
委員）○ 広場の利用者は日・祝日が休みでもあり、昼間に時間のある高齢者が中心となっているのか？

美和地区）⇒ だいたいそのとおり。
委員）○ 地元の若い人が使わせて欲しいという例はあるか？
美和地区）⇒ そういう相談もあることはある。若い方には運営委員会にも入ってもらっている。
事務局）○ ギャラリーを含め色々と取り組まれ、新聞で取り上げられたりしているようだが。
美和地区）⇒ これまでにも他の地域から多くの視察があった。例えば尼崎市の複数の団体からも問い合わせがあり視察を受けた。
委員）⇒ コミュニティセンターとの使い分けはどのように考えているのか。
美和地区）⇒ コミュニティセンターは講座や自治会等の会議で利用している。広場はまさに交流、気軽に立ち寄っておしゃべりしたり住民の方の作品を見たりすることに使われている。
委員）○（常連の方に）ふらっと来てみるという感じで使われている？
利用者）⇒ 私は書斎代わりに使っている。郵便局やスーパーがあり用足しにやってくるのに便利だから。
○ ある時、ここではない別のところで「とんぼり」の話が出たことがある。他のもっと大きな地区でも同じように拠点を整備して色々と整えたが、毎日開けるには管理人が必要など管理・運営に問題があって上手く活用できておらず、結局いつも閉まっている状態。「とんぼり」は毎日開けて利用も多いと聞いており、上手くやっているなと話していた。
○ ただ、利用する側からの意見としては、田舎なので地区内でも遠いところの人は利用しにくいと言うこと。私は自家用車で送り迎えでもと考えたりするが、事故のことやお金をもらってしまうと四国で問題となったタクシーの例もありなかなかできない。

委員）○ 確かに「足」の問題はある。広い地区ではみんなが来られるというのは難しいところ。
美和地区）⇒ やはり、高齢者が使いたいのに足がないため利用しにくくなっている、このところがこれからの課題と考えている。
委員）○「うどんの日」として毎週決まっているので、

これを上手く使って例えば利用したい人の要望を上手くとりまとめて、誰かが送迎する等できればよいのではないか。

美和地区）⇒ 今後、市からの補助でもいただけるよう考えたい。

事務局）○ 旧村の中心にあったＪＡが閉まり、その施設を核にマーケットなど広場だけなく上手く活用されており、他の地域の参考となるのでは。

○ 自治振興会の構成はどのようになっているのか？

美和地区）⇒ 各集落（9集落）の代表者で構成されている。代表役員だけでなく、各集落２～３名の全体 20 数名で構成している。

事務局）○ 喫茶のボランティアスタッフはどのような方がなっているのか？

美和地区）⇒ 全戸配布のチラシで募集し、地域の女性から応募があった。半日単位で広場に入れる日程を出してもらい、毎月 25 日頃に調整会議を開き、個人ごとに調整している。

事務局）○ スタッフとして関わられて、いわゆる「仕事が増えた」とか「やりがいができた」等どう感じているか？

美和地区スタッフ）⇒ それぞれに仕事を持っており、広場に入る日程を含め、自分たちでできる範囲でやっている。ここのスタッフは出てくる集落もバラバラで、この広場でつながっている。

また、自分たちも地域のみなさんと、顔を見て、世間話をして交流する場と思っており、お金を稼ぐためのウェイトレスという気はない。

○ 地域の方の作品展示もあり、展示替えの度に真っ先に新しい作品が見られると喜んでいる。

○ うどんなどのメニューも、インターネットを始め自分たちで研究してメニュー化してきた。うどん以外の新しいメニューも、客の回転が良ければ色々考えられるのだが、それほどでもないのであまり手を広げるのではなく、できる範囲でやっている。

○ 喫茶に集まる人から、手芸や園芸の得意な人、菊作りの得意な人が先生となって同好会的なグループが始まったりしている。

事務局）○ 役員やスタッフとしてではなく、「常連さん」としてこの広場をどう感じているか？

美和住民）⇒ 地域住民のふれあいの場として「ちょっと買い物」にも利用でき便利な良い施設だと思う。

○ 自分自身高齢者で、ひとり身でもあり、特に遠いところへ行けないので、近くにあり食事もできて便利で有り難い。

○ 自分はひとり暮らしの方のところを回って「今日はうどんの日」と案内をしているが、みんな喜んで来てくれる。

委員）○ そうやって来るときは一人で来る、それともみんなで誘い合ってくる？

美和住民）⇒ 来るときは一人に声をかければ、その人がまた別の方に声をかけるなど広がっている。

○ 広場ではちょっとした会や打ち合わせならコーヒー一杯だけで使え、便利。

地域協働課）○５年後に向けた資金確保等の考えは？

美和地区）⇒ メニューが少ないので今後はコーヒーだけでなく、一人 500 円以上使ってもらえるようなメニューを揃えたい。最初の頃は、皆さんに来ていただこうと言うことで、コーヒーにお菓子を付けていたが、１年やってお菓子の経費がかかりすぎるため取り止め、有料でトーストなどを提供するようにした。

地域協働課）○ 隣に小学校があるが、小学校との交流のようなものは考えているか。

美和地区）⇒ 児童を迎えに来る母親達が時間調整に利用したり、下校前に子供と一緒に利用してもらったりしている。

事務局）○ 事務局長としてやってきて、今後への自信とか課題をどう感じている？

美和地区）⇒ 広場運営にあたっては、電気のこまめな消灯等の省エネに気を配っている。

○ また、補助のある間に喫茶等での収入を軌道に乗せ、５年後に備えたい。

○ 課題はやはり、高齢者の方に来てもらうための「足」の問題。これをどう確保していくか。

委員）○ 広い幹線道路沿いに看板を上げていたが、その効果は？地域以外の方も来られるか？

美和地区）⇒ あの看板から広場まで距離があるので、広場の近くにもう一つ必要ではと考えている。また、別の大きな道路もありそちらにも看板を出して、地域外から訪れてもらえるようにしたい。

事務局）○ 丹波県民局管内では美和地区が特別なのか？

丹波県民局）⇒ ふれあい喫茶としては大山地区（⑰モデル）も実施している。大山地区は美和地区とは反対に、客席部分が狭く、厨房が広い。というのも、大山地区では高齢者への弁当配達などを中心に活動しており、美和地区のようにいつでも誰かがいるという訳ではない。

○ 美和地区では、小学校の隣と言うこともあり児童見守りグループが一旦この広場に集まってから見守りに出て行くといった使われ方もしている。

○ 美和地区では、スタッフも利用される方も元気であること、これが一番の成果だと思う。

事務局）○ 「喫茶」＋「ギャラリー」のアイデアはどこから出てきた？

美和地区）⇒ 篠山市の山の方に個人でギャラリー喫茶をしている方がおり、広場応募にあたって視察にいき、これは良いと思った。その喫茶ではテーマを持った個人の作品を展示されていたが、広場で行うにあたって地域の方の作品を展示することにした。

事務局）○ 新聞などにも働きかけ、よく取り上げられているが、校区外からも利用や問い合わせが多くなっているか？

美和地区）⇒ 尼崎から展示希望があり展示したことがある。このように校区外からも受け入れていけば、交流が広がっていくのではないかと思っている。

委員）○ 地域でいろいろと考えられているので、他の地域の情報も入れて、自分たちでできることをどんどん取り入れ、「真似て」いけば良いのでは。他の地域の真似をするというのは決して悪いことではなくて、できること、良いところを取り入れることが大切。この地域は他の地域の参考になるとも思えるので情報を出していってもらえればとも思う。

美和地区）⇒ ギャラリー喫茶についてやりたいところは多いようだが、視察に来られてもこれはよいと思っても、実際に考えるとスタッフをどうするか等の問題があり、なかなか上手く進んでいない様子。

○ この地区はボランティアスタッフに支えられてやって行けている。

― ― ― ― ― ―

（２） 丹波市黒井（くろい）地区（16 年度モデル）

〔地域の概要〕

①小学校区：黒井小学校区

②地域規模：1,298 世帯、3,636 人

③実施主体：黒井地区自治協議会

④拠点施設：しろやま交流館（市有地の無償貸与を受け新築）

〔取り組みの概要〕

○ 消費問題、防犯など地域課題に関する学習会や、「昔の遊び教室」「詩吟教室」「グラウンドゴルフ」等のサークル活動を展開

○ 拠点施設の新築にあたっては、地域の自己財源も活用しながら複数業者による「コンペ」をおこない整備内容や工事業者を決定

〔自己点検・アンケート〕

○自己点検平均点：3.26 点

○広場事業に取り組んだ成果：「活性化につながっている」

（※施設外観視察のみ）

― ― ― ― ― ―

（３） 篠山市日置（ひおき）地区（19 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：日置小学校区

②地域規模：760 世帯、2,342 人

③実施主体：日置校区まちづくり協議会

④拠点施設：中立舎（江戸時代の学問所を改修）

〔取り組みの概要〕

○「平成丹波こころ学」等の地域講座による地域文化の伝承やふるさと意識の醸成、世代間の交流活動に取り組むほか、健康づくりやふれあいサロンなど高齢者介護、子育て支援のほか、防災・防犯を実践する地域見守り活動を実施

○ 拠点施設は、江戸時代の石門心学の学問所であった民家を借り受け改修。

〔自己点検・アンケート〕
○**自己点検平均点**：3.58 点
○**広場事業に取り組んだ成果**：「活性化につながっている」

（参加者）日置地区：７名
篠山市役所：２名

〔主な発言内容〕

委員）○「学び」を中心としつつも「サロン」等の交流活動も取り入れるとのことで、今後どのように進めていこうと考えているか？

日置地区）⇒ 今後もいろいろと出てくると思うが、先ずは、男性にも来て欲しい。どうやったら男性の参加が増やせるかを考えたい。

委員）○ 自治会、里づくり協議会、まちづくり協議会の関係をあらためて整理するとどうなるのか。

日置地区）⇒ 自治会連合会と各種団体で構成されているのが、まちづくり協議会。里づくり協議会は日置小学校区の中でも緑条例の実施地区である日置地区を対象としたもの。

委員）○ この中立舎（ちゅうりゅうしゃ）以外に公民館や集会所などの公的な、地域が活用できる施設というのはどんなものがあるか。

日置地区）⇒ この地区は市で言うと城東地区となり、城東支所のある公民館がある。ただ、公民館はかなり大規模な施設で気軽に活用するというイメージではなく、また、自治会の会議などでも使用料が必要なため、最近では各種団体や自治会も無料であるこちらの中立舎を使うようになってきている。

○ 公民館の他に、自治会ごとに会館を持っている。

事務局）○ 先ほどの丹波市美和地区では地域の中心にあるＪＡ支店跡を活用していたが、こちらの中立舎はどのような経緯で拠点として活用することになったのか。

日置地区）⇒ 広場応募に向けて自治会やまちづくり協議会へ提案して了解された。これまで10 年ほど空き家で活用されておらず、所有者が近所への迷惑にもなるとのことで解体を考えていたところ、折角の資産なので活用できるよう相談し、固定資産税を賄える程度の賃借料で 10 年間の賃貸借契約をした。

○ 改修計画の策定にあたっては、地元の大工や左官など専門の方にも参加してもらって委員会を立ち上げ、計画をまとめた。

地域協働課）○ 活動の継続に向けて、ボランティアだけでやっていけるのか。次の世代の人をどう育てていこうと考えているのか？

日置地区）⇒ 活動は老人会が中心となっている。誰でも老人となるので、それまでに「こころ」をしっかり植え付けておけば自分たちが老人になったときにはちゃんとやってくれる。と考えている。

地域協働課）⇒ 今中心となって活動されている皆さんが、今後のお手本となっていると言うこと。

日置地区）⇒ 地域には教職員経験者も多く、絵画や科学等様々な得意分野を持つ方がいる。このような人達に参加してもらって、夏休みに子ども達を対象とした活動も考えていきたい。

○ 日置地区では、これまでの石門心学にとらわれるのではなく、新しい時代の人としての道を学ぶという意味を込めて「こころ学」とひらがなとしている。

○ 石門心学の学問所としては日置の他に福住等にもあったが学問所が残り、これらを中心に取り組んでいるのは日置だけと聞いている。

委員）○ １月にスタートしたばかりだが、この施設を使ってみてどうか。

日置地区）⇒ 里づくり協議会のイベントである「軒先」の会場として H17 年から 3 年使っており、地域の方への認知度もある。

○ 使用料は各部屋（３部屋）とも、午前、午後、夜に分けて１枠 500 円としている。調理室についてはどの活動にも必要なものでもあり、特に使用料はとっていない。

事務局）○ 篠山市での取組として日置地区は特徴的

なもの？

日置地区）⇒「学問」という切り口での取組は珍しい。

丹波県民局）⇒ 福住地区も 21 年度に応募する予定であるが、同じく学問や学問所を主要な要素として考える方向で進んでいる。

日置地区）⇒ 学問所が残っているのが珍しい。この建物の所有者（波部氏）は丹波黒豆を生み出した家であり、かつては道の向かいにお屋敷があった。既に取り壊されてしまっているがこれが残らなかったのが残念。

事務局）○ 広場として毎日開館しているようではないが、建物の管理はどのようにされているのか。

日置地区）⇒ 施設の鍵は事務局長、自治会長、城東支所で所有しており、利用したい人がどこかへ申し込めば三者で調整して利用できるようにしている。

○ また、事務局長は週２回ほど施設に来て、空気の入れ換えをするなど、各々が建物管理に気をつかってお守りをしている。

委員）○ 計画されているサロンなどが始まれば、スタッフや利用者の出入りが始まって、放っておいても毎日開けられるようになるのではないか。

日置地区）⇒ 将来的にはヘルパーさん達のたまり場になればと考えている。そうすれば使用料の収入にもつながり、運営の役に立つのではと考えている。

委員）○ 歴史的な建物を活用しており、畳敷きというのはよいのだが、例えば高齢者の方にとっては居座式は使いにくいのではないか。

日置地区）⇒ そのような声も聞くので、メインとなる和室以外に調理室にはスロープを設け、板敷きにするなどの対応をしている。

－　－　－　－　－　－

神戸・阪神南県民局管内（都市的地域）
〔平成 20 年 6 月 26 日実施〕
①神戸市灘区西郷地区
②神戸市東灘区六甲アイランド西地区
③西宮市甲子園口地区
④西宮市瓦木・深津地区

（１） 神戸市灘区西郷（にしごう）地区（19 年度採択）

〔地域の概要〕
①小学校区：西郷小学校区の一部〔校区分割〕
②地域規模：2,904 世帯、8,951 人
③実施主体：西郷ふれあいのまちづくり協議会
④拠点施設：市立西郷地域福祉センター〔改修〕

〔取り組みの概要〕
○「ふれあい喫茶」や健康増進のための「フラダンス教室」「卓球教室」等に取り組む
○ フラダンスなどができるよう活動スペースの床や、高齢者も使いやすいよう玄関扉などを改修
○ 施設改修が H20 年 3 月に完成したところで、施設を活用した本格的な活動の開始はこれから

〔自己点検・アンケート〕
○自己点検平均点：4.62 点
○広場事業に取り組んだ成果：「活性化につながっている」

（参加者）西郷地区：１名
神戸市灘区役所：４名

〔主な発言内容〕

西郷地区）○ 県民交流広場で当地域福祉センターの改修を行うことができた。１階の和室は高齢者も使いやすいように半分を洋室にした。また、玄関のドアが重くあけづらかったので、軽くしてドアノブも大きくした。エアコンもつけてもらい真夏でも大丈夫になったと喜んでいる。

委員）○ 施設の使用料等はとっているのか。

西郷地区）⇒ 最初は、助成を受けていることもあって参加費は無料にと考えていたが、参加者からいくらかでもとってもらった方が気兼ねなく参加できるとの声があがり、施

設の維持費のことも考えて、現在、ふれあい喫茶とフラダンスに限って、１回 100 円を自主的に寄付していただいている。

神戸市灘区役所）○ 施設の条例や課税との関係上、勝手に施設利用料を徴収することは認められないので、参加者の自主的な積立金として扱っている。

委員）○ 活動内容等に関しては、役員だけでなく構成員からの意見なども聞いているのか。

西郷地区）⇒ 月に１回会合を開いて意見交換をしている。フラダンスをやろうという意見も地域の人から出された。

委員）○ 広場について意見を聞くことは、広場の存在や活動を周知することにもつながるので、意見交換の場は続けてほしい。

委員）○ 夜間に子供の塾を開くとか、利用されていない時間帯を使って営利的な事業をする考えはないか。

西郷地区）⇒ いまはまだ 100 円の参加費ぐらいしか考えていない。

委員）○ 日曜日などに行事を実施すれば、子供や普段参加していない年齢層の人も集まるのではないか。

西郷地区）⇒ 老人会などが使う場合等を除き、基本的には日曜、祝日は利用を断っている。

委員）○ 地域に青年会はあるのか。平均年齢はどれくらいか。

西郷地区）⇒ 平均年齢は 40 を少し超えるくらい。会長などはかなりの高齢の方である。

委員）○ 広場事業をきっかけにして何か新たな活動は生まれているか。

西郷地区）⇒ ふれあい喫茶もフラダンスも広場事業としてはじめたものである。

講師は地区外の人で、わずかではあるが謝礼をはらってきていただいている。

ダンス参加者）○ 健康のためにと思ってからだの動く範囲で踊っている。まだ３ヶ月（３回）しかやっていないので上手ではない。秋頃にはうまくなっているのでまた見に来てほしい。

― ― ― ― ― ―

（２）神戸市東灘区六甲アイランド西地区（19 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：向洋（こうよう）小学校区

②地域規模：3,000 世帯、7,800 人

③実施主体：向洋ふれあいのまちづくり協議会

④拠点施設：市立向洋地域福祉センター（改修）

〔取り組みの概要〕

○ 地元ゆかりの著名人による講演会や地域の歴史を学ぶ歴史講習会などによる、わがまちの再発見・愛着心を育てる活動に取り組む

○ 国際色豊かな地域特性を活かし、地域の外国料理店や外国人居住者を講師とした料理教室を計画

○ 施設改修が H20 年 3 月に完成したところで、施設を活用した本格的な活動の開始はこれから

〔自己点検・アンケート〕

○**自己点検平均点**：4.65 点

○**広場事業に取り組んだ成果**：「取り組み始めたばかりで成果はまだ出ていない」

（参加者）西地区：１名

〔主な発言内容〕

委員）○ 施設はフルに使われているのか。

西地区）⇒ 午前と午後に分けて使っている。取り合いのような状況である。定期的にサークルで使っていることが多い。

委員）○ 施設の改修の後の評判はどうか。

西地区）⇒ ここの場所が分かりにくいところにある。しかし一度利用してもらったら継続して使っているようだ。月に 1 回、お茶とケーキで 100 円を負担してもらってサロンという形で集まってもらっている。広場事業としては、第 1 回目は、パティシエに集まってもらって料理講習会をやった。2 回目は、活動写真をやったが、評判が良くてもう一度やりたいとの声がある。

委員）○ 広報はどんな形でしているのか。

西地区）⇒ 掲示板とケーブルテレビを利用している。

委員）○ 日曜、祝日は開館しているのか。

西地区）⇒ 自治会が忙しくて開館していない。その代わり自治会館が開館している。

ここは、どちらかというと高齢者の利用が多い。

事務局）○ 外国人の来館はあるのか。

西地区）⇒ 外国人がくるのは祭りだけだ。

委員）○ 児童館がここの２階にあるが、連携できないのか。

西地区）⇒ 高齢者は 1 階、子供は２階というふうになっている。

事務局）○ 施設を改修して変わったところはあるか。

西地区）⇒ それまでと違う人がみえた。

事務局）○ 一度来た人がまた来るとか。

西地区）⇒ 再度、訪れる人が多い。いろんな人が集まるようになった。

委員）○ 企画はどうしているのか。

西地区）⇒ 自治会長が中心になって考えている。定例会議は、委員とボランティアの 25 名程度で 2 ヶ月に１回開催している。

○ 施設改修の際には、地域のみんなで意見を出し合って協議した。あれも直したい、こっちも改修したいといろんな意見が出て大変だった。施設の開け閉めは地域の住民が当番で行っている。

事務局）○ 地域では国際交流を活動の一つに取り上げているようだが、ここには外国人もよく来るのか。

西地区）⇒ 料理講習会に外国の料理人を招いたりして国際交流を図っているが、普段はここに外国人はほとんど来ない。この施設は、人目につきにくい場所にある。

－　－　－　－　－　－

（３） 西宮市甲子園口（こうしえんぐち）地区（18 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：上甲子園（かみこうしえん）小学校区

②地域規模：5,358 世帯、11,600 人

③実施主体：甲子園口地区まちづくり協議会

④拠点施設：甲子園口商店街内「ふれあいスポット」（空き店舗の改修）

〔取り組みの概要〕

○ 毎週木曜日の「ふれあい喫茶」や、地域の高齢者等の特技・技能を活かした各種教室による高齢者と学童の交流促進、商店街と地域が連携したイベントの実施に取り組む

○ 事業開始から２年が経過し、施設運営等について具体的な課題が見え始めている

〔自己点検・アンケート〕

○自己点検平均点：2.55 点

○広場事業に取り組んだ成果：「あまり活性化につながっていない」

（参加者）甲子園口地区：５名

〔主な発言内容〕

委員）○ 活動の情報発信はどのように行っているのか。

甲子園口地区）⇒ この広場と公民館、市民会館などにポスターを配布したりしている。

事務局）○ 県民交流広場事業のことは、どこから聞いたのか。

甲子園口地区）⇒ 瓦木・深津地区の広場の世話をしている方から聞いたと思う。

委員）○ この店舗の借料はいくらか。

甲子園口地区）⇒ 月８万円。高いと思われるかもしれないが、不動産屋では 13 万円とされていたのを安くしてもらった。

事務局）○ ５年後の自立のことはどう考えているか。

甲子園口地区）⇒ ５年を経過して助成金がなくなっても、１日でも長く続けていきたいとの気持ちはある。

委員）○ ふれあい喫茶の売り上げはどうか。

甲子園口地区）⇒ 週１日、２時間だけの実施なので大した売り上げではないが、１日 3,000 円程度、多い日で 4,000 円くらいである。

委員）○ 喫茶以外の日は何に利用しているのか。

甲子園口地区）⇒ 子供への本の読み聞かせ、人形づくり、マジック、折り紙等の活動を行っている。マンション建設の反対集会などに利用したこともある。

委員）○ 利用者には利用料を取っているのか。

甲子園口地区）⇒ まちづくり協議会主催の行事では取っていないが、それ以外では１回分 500 円をいただいている。

事務局）○ 武庫川女子大とは何か連携して活動しているのか。

甲子園口地区）⇒ まちづくりの関係で、女子大の教授や学生と話し合ったり、アドバイスを得たりしている。

事務局）○ 玄関をガラス張りにしているが、評判はどうか。

甲子園口地区）⇒ 賛否両論ある。中が見えて活動状

況や作成した小物などを外から見てもらえるが、落ち着かないという人もいる。

委員）○ 靴を脱いで上がるのがいいのか、靴のまま入れる方がよかったのか・・

甲子園口地区）⇒ いまのように、靴を脱いで、電気カーペットの上でゆったりくつろげるのがいいと言う人は多い。

－　－　－　－　－　－

（４）　西宮市瓦木（かわらぎ）・深津（ふかづ）地区（18 年度採択）

〔地域の概要〕

①小学校区：瓦木小学校区、深津小学校区の統合（２校区統合）

②地域規模：2,904 世帯、8,951 人

③実施主体：瓦木・深津県民交流広場推進委員会

④拠点施設：瓦木・深津県民交流広場「ぽっかぽかひろば」（小学校敷地内に新築）

〔取り組みの概要〕

○ 放課後等に学習や読書が自由にできるフリースペースでの世代間交流に取り組む

○ 青少年の見守りと学校の安全を守る活動の他、高齢者の集う地域福祉を進める拠点として活用

○ 地域のボランティアスタッフを中心に広場を毎日オープン。小中学生が自分たちでルールを作り自由に利用している。

〔自己点検・アンケート〕

○自己点検平均点：4.23 点

○広場事業に取り組んだ成果：「おおいに活性化につながっている」

（参加者）瓦木・深津地区：３名

西宮市：１名

〔主な発言内容〕

瓦木・深津地区）○ スタッフは 18 名おり、そのうち約 10 名が、毎日 10 時から 19 時まで３交代のローテーションを組んで広場に詰める体制にしている。２校区統合で事業実施しているが、７：３の割合で、やはり瓦木校区の人の利用が多い。

瓦木・深津地区）○ 隣接している公民館分室の活動と連携できていることが、この広場の活性化に役立っている。例えば、公民館で老人会の集まりがあれば、会合の後にここに立ち寄って、高齢者が子供と自然に交流している。

○ 小学生時代にこの広場の雰囲気に馴染んだ子は、中学生になってもやってきてくれるのでいつも賑わっている。また、六年生や中学生は、我々が特にお願いしなくても、きちんと低学年の子の面倒を見てくれている。

「ここにくれば広場があり、誰かがいてくれる」という地域の拠点にしたいので、盆と正月以外は開けておきたいと思っている。

瓦木・深津地区）○ 広場事業に携わってはじめてわかる苦労や困難もある。この経験を生かして地域活動のコーディネート的なことにも関わっていきたい。

委員）○ 地域活動のコーディネートでは、その地域に住み、住民と顔見知りの人がコーディネートする方がうまく進むことがあり、専門家的な地域コーディネーターとは役割分担していくのが望ましいと思う。

瓦木・深津地区）○ 同じような経験をしている人同士で情報交換することは何かと役に立つので、他の広場との交流を図っていくのも大切だと思う。

○ この事業の助成は５年間で終了するが、地域の活動はその後も続いていく。行政は「５年で終わり」ではなく、その後も必要なフォローを願いたい。

県民交流広場事業の問い合わせ先

地　域	問い合わせ先	電話番号
神　戸	神戸県民局　企画県民部　地域協働課	０７８－３６１－８５４３
阪神南	阪神南県民局　県民生活部　地域協働課	０６－６４８１－４３９７
阪神北	阪神北県民局　県民生活部　地域協働課	０７９７－８３－３１３６
東播磨	東播磨県民局　県民生活部　地域協働課	０７９－４２１－９２９１
北播磨	北播磨県民局　県民生活部　地域協働課	０７９５－４２－９５１６
中播磨	中播磨県民局　県民生活部　地域協働課	０７９－２８１－９３２０
西播磨	西播磨県民局　県民生活部　地域協働課	０７９１－５８－２３４１
但　馬	但馬県民局　県民生活部　地域協働課	０７９６－２６－３６４４
丹　波	丹波県民局　県民生活部　地域協働課 （丹波の森公苑　活動支援部）	０７９５－７２－５１６８
淡　路	淡路県民局　県民生活部　地域協働課	０７９９－２６－２０４５

◇◆◇　県民交流広場公式ホームページ　　http://www.hyogo.kouryu-hiroba.jp/　◇◆◇

（ 事 務 局 ）

兵庫県企画県民部県民文化局県民生活課

平 成 ２ ０ 年 ７ 月

〒６５０－８５６７
神戸市中央区下山手通５－１０－１
ＴＥＬ ：（０７８）３４１－７７１１（代表）
ＦＡＸ ：（０７８）３６２－３９０８
E-mail：hiroba_seikatsusouzouka@pref.hyogo.lg.jp